

KOMATSU

コマツ栗津工場OB会

会誌 第39号



第40回記念総会

“ 2018 ”
平成 30 年

本号内容のあらまし

OB会 第40回記念総会特集

OB会 平成29年度行事報告

フォトハイライト

会員寄稿文集

随筆、紀行文、思い出、など

地区活動報告・トピックス

表紙の説明

題 名 第40回記念総会
撮影日時 2017年5月27日
撮影場所 サイエンスヒルズ小松

栗津工場OB会の定期総会は、今年度第40回を迎えた。

例年開催している小松市民センターが工事中のため使用出来ず、また40回記念総会にふさわしい会場として「サイエンスヒルズ小松」を借用できることになり、総会及び記念式典をこの会場で行いました。

本号では、第40回記念総会の特集を掲載しましたので、詳細は本文をご覧ください。

(撮影：園部 壮一郎)

巻頭のご挨拶

コマツ栗津工場OB会

会長 竹田 敏洋

平成29年度はコマツ栗津工場OB会が設立されて丁度40年目の節目の年となりました。およそ一年前から役員の間で相談してきた第40回記念総会も2017年5月27日(土)サイエンスヒルズこまつで野路小松製作所会長をご来賓にお迎えし、総勢400人の出席を得て盛大に開催することが出来ましたことひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。記念総会に関連する記事を本号で特集しています。

またもう一つの主要な行事である物故者追悼法要は例年6月頃に行っておりますが、今年度は5年に一度の高野山に行く年にも当たっており、大きな行事が重なること準備が十分にできなくなる懸念もあることから、記念総会から約半年後の10月24・25日に実施しました。こちらも丁度台風の通過直後で悪天候の覚悟で出かけましたが、お陰さまで雨にも当たらず無事40回目の追悼法要が出来ました。ただ風が強く、読経もご遺族代表の感謝の言葉も、法名軸が強い風におおられて倒れるのを防ぐため支えておらねばならず、陰から拝聴させて頂くこ

ととなりました。

その他の本年度行事計画もこの会誌が皆様のお手元に配布されることをもって、ほぼ達成しようとしております。国内海外旅行、ゴルフ、グランドゴルフ、パークゴルフやウォーキングなどのスポーツ、白寿・米寿のお祝いや長期療養者へのお見舞い等慶弔に関する行事、そしてこまつの杜でのボランテニア活動などその活動状況についても本誌の中で詳しく知ることが出来ます。行事に参加したときの僅かな感動を思い出していただけると嬉しく思います。

平成23年に開園したこまつの杜のお陰で我々の活動の場も機也会も飛躍的に増えてきています。こまつの杜でのボランテニア一人当たりの年間参加回数が約20回と開園当初に比較すると二倍以上に増えていきます。私たちOB・OGは少しでも身体を動かすことが健康維持の基本であります。こまつの杜でのボランテニア活動は少しでも世のため人のためにという先人から受継ぐ使命感とそして満足感をも満たしてくれるものと感じています。

2018年は栗津工場設立80周年、2021年にはコマツ創立100周年を迎えます。これまでを振り返ってみますと、競合C社が国内に上陸するのに対抗し、品質対策で取り組んだマルA対策以来グローバル化の波に乗って飛躍し、決めたことはきちんと

守る生産活動を推進、今はダントツ商品ในตลาดに送り出して来ています。DANTO TSUは英語になりコマツはダントツな会社とのブランドイメージが出来ているとも聞き及んでいます。

激変する環境の変化にしっかりとついていけるところが我々に共通する遺伝子です。これからのOB会の活動も環境の変化をしっかりと把握し、皆で清く明るく正しく活動していけるように心掛けていく所存です。そして会員皆様のご健勝をお祈りし、かつOB会活動への一層のご協力をお願いし、巻頭のご挨拶といたします。



記念パーティーで野路会長と

ご挨拶 及び O B 会活動に 期待すること

コマツ常務執行役員

栗津工場長 藤田 直樹



昨年は栗津工場 O B 会第 40 回定期総会おめでとうございました。また、来賓としてお招き頂きましてありがとうございました。

栗津工場は今年 80 周年を迎えます。O B 会も 40 年以上活動されており、今更ながら栗津工場の歴史の重さに身が引き締まると同時に栗津工場がこれまで発展することができたのも、諸先輩方の多くの苦労や努力があったからこそだと深く感じております。これまでのご尽力に対し改めて心より御礼申し上げます。

さて栗津工場の現況はマイニング事業を中心に世界同時好況の中、2017 年度の売り上げは「昨年比 20% 増の 2 千億を超える」とみています。働き方改革が声高く言われる中、協力企業の方々とともに生産達成に向け努力しているところです。

また私が栗津工場長として就任時に三つの「I (アイ)」について取り組んでいます。

一つ目の I は、I O T による生産改革、二つ目の I は農林業を含めた I C T 建機のサポート強化、三つ目の I はこれらの活動を「石川モデル」として、石川県から全世界に広く発信していくというものです。今年はその集大成の年として地域発展に寄与できるよう、皆様のご支援・ご協力を頂き、石川県からその成果の発信に努めていく所存です。

その取り組みの一つとして国内 11 番目となる「I O T センタ」が 4 月に竣工いたしました。ぜひ一度見学に来て頂き、今のコマツの取り組みをご覧頂ければと思います。

冒頭でも申し上げましたが、栗津工場は今年創立 80 周年の年となります。O B / O G の皆様と地域に育って頂いた感謝の気持ちを胸に、歴史の伝承と今後の発展を意識した取り組みをする予定です。今年の工場開放デーは創立月の 5 月 20 日に開催します。ぜひ皆様のご協力とご来場をお待ちしております。その他にも地場産業とコラボした記念品の製作を進めております。皆様にもお届け致しますので楽しみにして下さい。

石川地区における工場の活動においては、O B / O G の方々のこれまで以上のサポートが必要不可欠と考えております。是非、現役社員達の手助けとなるような生産活動におけるアイデアや過去の人脈を現役にどうすれば繋げることができるのかなどご教示頂ければ大変ありがたいです。

皆様の経験・知恵を活かした取り組みについて形にできるものがあればとも考えていま

す。人手不足がますます進む中、業務効率の改善には風通しの良い職場環境づくりが大切と考えております。今後の企業発展につながるような組織づくりに向けて、現役社員とごつくばらんに交流できる企画を一緒に考えたいと思います。

O B 会は企業の発展と地域貢献をサポートできる存在です。O B 会の存在意義を高めるためにもいろいろな活動が展開できればと思います。よろしくお願い致します。

また、地方創生を目的に本社機能の一部移転の取り組みの一つとして研修センタを設立しました。その結果交流人口増加、年間 3 万人規模の施設利用者が地元宿泊施設・飲食店を利用することにより、小松市を中心に大きな経済効果を生みました。これからも地域活性化に向け取り組みを強化し、さらに魅力のある施設にすることで、これまで以上に利用者数を増やして行きたいと思えます。

地域交流の場ともなっているこまつのは、皆様のボランティア活動でなり立っています。皆様が勢力的に活躍されているおかげで毎年多くの方にご来場頂いており地域活性化やコマツという企業のイメージアップにも繋がっております。常にコマツを支えて頂いている団体としてこれからもご協力をよろしくお願い致します。

末筆ながら貴会の御発展と皆様方の一層の御健康をお祈り申しあげ、私の挨拶とさせていただきます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

栗津工場OB会40周年

お祝いのことば

コマツユニオン北陸支部委員長

北瀬 利樹



コマツ栗津工場OB会40周年を心からお慶び申し上げます。

また、OB会の皆様には永年に渡りコマツユニオンに対してご理解とご協力をいただいた事に、厚く御礼申し上げます。

コマツユニオンとしましても昨年70周年を迎え、現在、これからの10年を見据え、3つの視点（安全・安心、やりがい・働きがい、連携・連帯）をベースに活動を進めている最中ではありますが、今後も栗津工場OB会との連携を密にし、更に「強いコマツ、良いコマツ」の実現に向け、取り組みを強化して参りたいと思う次第です。

栗津工場OB会が発足し、これまでの40年を振り返ってみますと、設立当時（1978年）は、急激な円高により日本経済も混迷する中ではありましたが、コマツ（小松製作所）

としては総力をあげてコスト低減や品質向上を推し進めた結果、3年ぶりの増収増益となり、その後もオイルショック、バブル崩壊、リーマンショックといった幾度の経済環境の悪化のなかでも、ダントツ機種の開発やQCサークルを中心とした品質向上への取り組みを進め、現在では世界をリードするグローバル企業として成長し続けています。

このように経済が混迷する中においても、これまでコマツが成長を続けた背景には、OBの方々の絶え間ない努力やご苦労があり、数々の難局を乗り越えた経験が今日のコマツ、コマツユニオンであるという事は言うまでもありません。

また「コマツ栗津工場OB会」設立にあたって、これまで定年退職を迎えられた方々の相互の親睦・交流や生きがいのある人生を送るために、設立準備委員会を中心としたOBの方々には、名簿の整備、役員人事構成、規約の作成等、大変なご苦労があったかと思いますが、今このように40周年という大きな節目を迎えられることは、現役である我々にとっても大変誇らしく思えると同時に、これまでの皆様のご功績、ご苦労に対し改めて敬意と感謝を申し上げます。

少子高齢化、働き方改革等・現在我々を取り巻く環境としては様々な課題が山積し、時代の変化も過去と比較し、スピードを増して変化していきますが、どのような時代にお

いてもコマツユニオンは組合員の先頭に立ち、組合活動の原点でもあるFace to Faceで信頼の輪を広げ、安心して働ける職場環境の実現とゆとりのある生活実現に向けて今後も取り組んで参ります。

またOB会の活動に対してもこれまで同様に積極的な支援を継続して参りますので、OB会の皆様には更なる活発な活動を展開され、会員相互の親睦・交流を深められるとともに、我々後輩に対しても遠慮することなく、折に触れご指導・ご鞭撻賜りますようお願い致します。

コマツ栗津工場OB会の益々のご発展と皆様方のご健勝を心より祈念申し上げます。お祝いのことばとさせていただきます。



第40回総会記念式典で祝辞を述べられる北瀬委員長

コマツ栗津工場OB会 40周年記念式典へ参加して

コマツ茨城工場OB会副会長

石川 稔

5月27日に小松市の「サイエンスヒルズこまつ」で行われた栗津工場OB会の40周年記念式典に出席してきました。参加者は招待者も含めて400名位になっていたようです。

さすが栗津工場ですね。式典に先立ち、コマツ研修センターロビーに展示されたOBによる余技（絵画、書、写真、手工芸品、生け花）等を見学する機会がありました。どれを見てもプロレベルの作品ばかりで驚くばかりでした。

さて、記念式典は「サイエンスヒルズこまつ」にて午後3時15分より行われ、最初に小松市の和田市長と北瀬ユニオン北陸支部委員長の祝辞があり、その後栗津工場OB会地区役員表彰が行われました。記念講演は野路会長による「コマツによる石川県の農業・林業とのコラボ」が大変印象に残りました。既存のやり方に拘らずコマツの技術を加えることで効率（能率・収量）が格段に良くなった事例が次々と紹介されました。地方の再生という取り組みが今後花咲くことを期待したいところです。



＜式典風景・OB会メンバーによる仕舞＞

その後、記念パーティーは「ホテルサンルート小松」に場所を移して行われました。オーブリンクではOB会会員による余興（仕舞、大太鼓）で参加者を楽しませてくれました。ここでの進行はOB会婦人部会の方達が担当していました。茨城工場OB会にも入会してくれる女性が出てくると良いですね。栗津工場OB会の竹田会長による挨拶の後、藤田工場長（前茨城工場の工場長）の乾杯でパーティーがスタートしました。パーティーは一時間半ほど続き、各工場OB会役員と親しく懇談することが出来ました。茨城工場OB会はまだ8年目のホヤホヤですが、今後とも皆さんで会を盛り上げていきましょう！



＜進行担当のOB会女性部の方＞

※本稿はコマツ茨城工場OB会会報に投稿されたものですが第40回総会記念に関連する記事ですので本会誌に了解して頂き掲載させて頂きました。

コマツ栗津工場OB会 会誌第39号 総合目次

表 題	地 区	氏 名	頁
巻頭のご挨拶	OB会会長	竹田 敏洋	1
ご挨拶及びOB会活動に期待すること	コマツ常務執行役員 栗津工場長	藤田 直樹	2
栗津工場OB会40周年お祝いのことば	コマツユニオン北陸支部委員長	北瀬 利樹	3
コマツ栗津工場OB会40周年記念式典へ参加して	コマツ茨城工場OB会副会長	石川 稔	4
会誌39号 総合目次			5
第40回記念定期総会を開催：行事計画・予算などを決定			6
記念式典・講演会・記念パーティ・余技作品展を開催			7
小松栗津工場OB会40周年の裏話	寺井地区	前田 昭則	9
40回記念行事の余技作品展を振り返って	国府地区	山下 久輝	11
第40回物故者追悼法要を高野山にて執行 国内旅行を兼ねて（南紀・白浜の旅）			12
海外旅行：ベトナム（ハノイ&ホーチミン）の旅			13
南紀白浜温泉を訪れ	寺井地区	前田 昭則	14
OB会ベトナム5日間の旅	稚松地区	釜本 隆司	16
ベトナム現地協力工場見学記録	山代山中地区	阿木 清隆	19
スポーツ・文化・共済・ボランティア活動報告			21
文化祭に参加して	芦城地区	福田 幸代	24
ウォーキングの集い：関ヶ原合戦の史跡を巡る			25
米寿の皆さん おめでとうございます			26
第40周年記念総会フォト・ハイライト			29
第40周年記念総会協賛 余技作品展の紹介			31
平成29年度 行事フォト・ハイライト			33
地区活動 フォトメモリー	各地区		35
こまつの杜OBボランティア活動報告			41
花と蝶のクラブ発足	蓮代寺地区	吉田 晋	47
平成29年度 OB会役員の紹介			49
百姓の持ちたる国と密接な富樫家・後半期の守護について	向本折地区	小枝 俊弘	51
嗚呼 道下幸助さん逝く（三）	辰口地区	永山 純夫	56
美味しさは幸を運ぶ	寺井地区	前田 昭則	59
独楽回し 趣味の話	矢田野地区	早松 隆昌	59
川柳	符津地区	北野 正敏	61
水路記念碑を探し求めて	金沢地区	沢村 勝義	61
わが来し方の記（自分史・壮年時代）	東陵地区	小枝 敬一	63
コマツOBゴルフ同好会の紹介	蓮代寺地区	山田 俊昭	65
【資料】小松製作所栗津工場OB会規約			66
編集後記、次号原稿募集、発行者			68
表紙「第40回記念総会」 表紙の裏に説明文			
裏表紙「神います 越しのしらね」			

第四十回記念 定期総会を盛大に開催

平成二十九年度行事計画・予算などを決定

記念式典・講演会・記念パーティ・余技作品展も開催

定期総会

開催日時 平成29年5月27日(土)
午後2時より

開催場所 サイエンスヒルズ小松

出席 会員 337名(総会のみ)

◆ 総会次第 ◆

開会挨拶 竹田会長 (来賓なし)
議長選出 高田 龍蔵常任理事(根上地区)

第1号議案

- ①平成28年度行事結果報告
向井良夫事務局長より報告
 - ②平成28年度会計決算報告
洲崎利圭会計より報告
 - ③平成28年度会計監査報告
柴田 功会計監査より報告
- 以上の報告を拍手で承認

第2号議案

規約の一部改正案を提案し、
原案通り承認



平成29年度 行事計画表

区分	行事名	実施日	場所
総会	40回定期総会	5/27	サイエンスヒルズ
	祝賀パーティ	5/27	サンルート小松
	余技展	5/27-28	総合研修センタ
旅行	55回国内旅行	10/24-25	高野山・白浜
	27回海外旅行	11/8-12	ベトナム
スポーツ	19回グラウンドゴルフ大会	5/18	市民センタ
	17回ゴルフ大会	9/26	小松CC
	17回パークゴルフ大会	9/14	木場湯公園
	ウオーキング遠征	6/14	関ヶ原合戦跡
	ウオーキング近郊	10/11	安宅周辺
文化	第5回文化祭	11/22	松風荘
	会誌39号発行	3月	投稿募集
慶弔	米寿・白寿のお祝	11月	対象者宅
	長期重度療養者見舞	6月・11月	介護3以上
	会員・配偶者死亡弔慰	都度	弔慰基準
	40回物故者追悼法要	10/25	高野山
地域貢献	こまつの杜ボランティア	通年	
情報伝達	会報の発行	年4回	全員配布
	ネット活用勉強会	随時	
会員組織	定年退職者説明会	5月・11月	粟工
	新入会員名簿発行	1月	全員配布
	理事会・常任理事会	都度	
	地区連絡会	7/30	松風荘
	地区総会・行事	都度	各地区
対外	他工場OB会交流	都度	
	県退職者連合	都度	

平成29年度 会計予算

収入明細			
項目	前年度実績	29年度予算	
繰越額	195,252	546,183	
会費	4,853,000	4,685,500	
入会金	94,000	74,000	
賛助金	2,400,000	2,400,000	
雑収入	301,228	240,000	
合計	7,843,480	7,945,683	
支出明細			
項目	前年度実績	29年度予算	
定期総会費	559,648	10,000	
地区助成金	939,000	910,500	
旅行助成金	64,684	100,000	
追悼法要金	315,391	400,000	
共済費	1,874,742	2,000,000	
会議費	77,231	100,000	
会誌発行費	984,172	1,000,000	
名簿発行費	60,426	60,000	
事務局手当費	580,000	580,000	
会報発行費	357,696	360,000	
通信費	196,462	200,000	
地区事務費	205,000	205,000	
クラブ活動費	297,427	290,000	
地区連絡会議	172,884	200,000	
雑費	168,059	180,000	
名簿引当金	300,000	300,000	
特別積立金		500,000	
退職者連合会費	70,000	70,000	
文化祭	74,475	80,000	
支出合計	7,297,297	7,545,500	
次期繰越額	546,183	400,183	
合計	7,843,480	7,945,683	

特別会計の収支見込み
収入:名簿積立金 300,000円
支出:キャビネット・電子黒板購入
40回記念総会

第3号議案

- ①平成29年度行事計画について
向井良夫事務局長が提案説明(別掲)
 - ②平成29年度会計予算について
洲崎利圭会計が提案説明(別掲)
- 以上について、原案通り拍手で承認

閉会の辞 中本久治副会長

会場の一部に「こまつの杜」における活動の紹介コーナーが設けられ、野路会長も見学されました。

記念式典

午後3時15分より

定期総会終了後、同会場にて来賓を迎えて記念式典を行った。

来賓名（以下敬称略）

コマツ関係

取締役会長 野路 國夫

執行役員栗津工場長 藤田 直樹

金沢工場長 森 保暁

栗津工場総務部長 伊藤 祐一

同 総務部担当部長 福田 忍

同 総務課長 小森 博親

同 庶務課 魚岸直弘

コマツウエイ総合研修センタ

所長 佐藤 真人

同 副部長 金子 光昭

コマツユニオン関係

北陸支部執行委員長 北瀬 利樹

同 副執行委員長 森林 清

同 書記長 原 浩士

その他

小松市長 和田 慎司

NPOみどりのコマツすくすく会

理事長 山口 徹

北陸労働金庫

小松支店長 橋場 伸一

他OB会

社友会 会長 林田 正昭

小山工場OB会 会長 伊藤 正義

茨城工場OB会 副会長 石川 稔

氷見寿松会 副会長 中元 猛

同 幹事長 坂下 見秋

来賓祝辞

和田 慎司 小松市長（OB会員）

北瀬 利樹 コマツユニオン

北陸支部執行委員長

来賓紹介

壇上にご臨席いただいた来賓の方々

（上記）を司会者よりご紹介した。

祝電披露

司会者読み上げ

コマツ代表取締役社長（兼）CEO 大橋 徹二

コマツユニオン中央執行委員長 榊原 公雄

以上2名のみ電文を披露、以下氏名のみご紹介

コマツ大阪工場OB会会長 鳥越 賢司

コマツ小山工場OB会会長 伊藤 正義

コマツ茨城工場OB会会長 中村 昇司

並びにOB会幹事一同

コマツ川崎OB会一同

表彰状贈呈

阿木副会長読み上げ

永年（十年以上）地区委員などをされた方を表彰

後藤 吉和（松任）、梶川 和広（美川・川北）

米田 清忠（根上）、上田 政二（寺井）

川崎 高盛（湯谷）、嶋崎 忠夫（湯谷）

竹田 祐康（湯谷）、南 外志夫（中海）

山 勝三（東陵）、山田 茂信（東陵）

中田 宏明（東陵）、若林 肇一（東陵）

蔵藤 外茂男（能美）、窪田 利男（松東）

北村 信勝（安宅）、宮下 友文（牧）

中田 慶昭（稚松）、北 博直（稚松）

鈴木 好隆（稚松）、中田 貞幹（芦城）

森 克己（向本折）、西田 末吉（向本折）

西村 和弘（御幸）、安井 樞男（御幸）

小林 均（栗津）、向出 俊治（山代・山中）

西田 利雄（山代山中）、本山 進（山代山中）

塚谷 忠義（山代山中）、松任谷弥生（山代山中）

南 昭二（大聖寺）、安達 外治（大聖寺）

木下 利幸（大聖寺）、本山 勝秀（大聖寺）

以上34名を代表して中田慶昭さんに竹田会長

より、表彰状並びに記念品を贈呈した。

感謝状贈呈

阿木副会長読み上げ

永年地区理事を勤め、今回退任される方2名に竹田会長より感謝状並びに記念品を贈呈した。

小枝 俊弘（向本折）、豊岡 正俊（安宅）



記念講演

午後四時より

式典後、お忙しい中をおいでいただきましたコマツ 野路会長より記念講演として「コマツの現況と石川県の取り組み」と題しまして約40分間お話をいただきました。（終了後会場移動）

記念パーティー

午後5時30分から

開催場所 ホテルサンルート小松

サイエンスヒルズ小松からホテルサンルートへ、あわただしく移動して頂き、316名が出席して盛大に記念パーティーを開催した。

来賓の皆さんを拍手で出迎え、向井事務局長の開会の辞でスタート。司会は福井ひろみ婦人部長と谷口光恵副部長。最初に竹田会長が開会の挨拶。オープニングの余興としてOB会員による仕舞を披露。幕開けにふさわしい、おめでたい「高砂」と「八島」の2曲を演じた。出演者は長野 裕さん、大間豊光さん、丸二健一さん、山崎浩吉さん、田嶋 進さん、畑田好弘さんの皆さんでした。この後、藤田栗津工場長の乾杯のご発声で開宴。各テーブル同士の交流などしばし歓談。四十年前OB会設立に尽力された方々に司会者がインタビューし、これを撮影しながら会場のスクリーンで紹介するという試みも好評でした。



締め余興として、同好会による「大太鼓」を演じていただきました。出演者は竹田和男リーダー以下北川清健さん、伊野義明さん、竹田好広さん、舟津 進一さんの皆さんでした。最後に前田副会長の閉会の挨拶でお開きとした。



余技作品展



開催日時 平成29年5月27日(土)

午後1時から

5月28日(日)午後0時まで

開催場所 総合研修センター ロビー

第40回記念総会の協賛行事として、OB会員による「余技作品展」を総合研修センターのご厚意でロビーを使用させていただきました。多くの方々にご来場いただきました。常任理事の山下久輝さんに責任者となっていたいただき、昨年から準備を進めてきました。野路会長はじめ約250名にご来場いた

いただきました。ありがとうございました。出展された方は次の通り

◎絵画の部

◎書の部

◎生け花

◎写真の部

◎手工芸の部

北 真佐男(国府)	油絵	◎手工芸の部	中村 博(松任)	折り紙
中田 俊雄(中海)	油絵	石田 咲雄(湯谷)	九谷焼皿	
釜本 隆司(稚松)	水彩画	西村 賢司(まり子)	(御幸)	手芸
山本 勇(蓮代寺)	油絵	河村 良平(寺井)	九谷焼	
宮川 忠彦(矢田野)	水彩画			
川南 明夫(八幡)	日本画			
遠藤 豊子(月津)	水墨画			
橋本 文雄(国府)	書			
西村 義雄(御幸)	掛け軸			
辻 貞美(御幸)	書			
谷口 礼子(国府)	書			
坂井千恵子(国府)	草月流			
西 広子(金沢)	古流千昇派			
福島 健介(国府)				
山野 一郎(湯谷)				
高本 謙一(松任)				
南 修二(根上)				
北川 順士(上小松)				
森田 久信(美川・川北)				
川崎 則雄(東陵)				
水島 亮(御幸)				
沢村 勝義(金沢)				

コマツ栗津工場OB会

40周年記念の裏話

寺井地区 前田昭則



OB会の役員をしていた関係上OB会40周年記念行事の企画立案に携われる機会を得ましたので計画から記念式典終了迄の経緯を振り返ってみたいと思います。平成28年度OB会定期総会で年間活動計画が承認され、活動が始まると同時に、平成29年度に迎える40周年記念行事の検討が4役会の議題として検討される事になりました。

OB会の目的である親睦と交流を満足させるには何を主眼に企画すればよいのか、前回の30周年記念を参考に検討する事にしました。平成18年、19年当時の会計簿や書類、会誌、会報を漁り概要を把握する一方、現在の常任理事や女性部の意見を参考に、毎月3回程度4役会を開催しアウトラインを作成する事にしました。

アウトラインを基に日時、場所、記念行事の内容（30回記念時実施したOB会会員に

よる余技展の開催も含め）、参加人員の予想（招待者や来賓含む）、記念品の選定等々含め概算費用は特別会計で積み立ててある300万円を参考に内容を検討する事にしました。先ず日時は、来賓招待者のコマツ会長や社長の日程を最優先に決める事にしました。次に総会、記念式典への参加予想人員を最大450～500名と予測して、収容可能な施設の確保（今年は市民ホールが改修工事で使用不可能）を重点に考え場所の選定に当たりました。

3月に入り会社より会長・社長の予定も決まり、日時を5月27日と決めました。次に総会兼記念式典の場所は、収容人員や交通の便、駐車スペース等考慮しサイエンスヒルズに決めました。しかしサイエンスヒルズですと問題点も多々あります、収容人員は500名可能ですが、サイエンスヒルズでは椅子が300脚しか無くて椅子を外部から200脚借用しないといけない、場所が広く後ろの方では講演者の顔や話の内容が良く分からない等々の意見も多く苦慮する。又総会終了後の懇親会を兼ねた昼食会が椅子席のため出来ない事です。婦人部や常任理事の方々の意見要望を聞き、当初は弁当に紅白の饅頭を付け、持ち帰りにしたなどの意見も多々有りましたが、OB会の目的である親睦と交流を考えるに、余りにも寂しいとの事から、場所を変えてパーティ形式が親睦と交流を深める事が出来一番良い方法との意見から、場所と費用を考慮し、結論としてホテルサンルート立食

パーティとし、参加費無料と決断しました。又余技展については多くの方に見て頂くには総会会場に近く駐車場等を考慮しコマツ総合研修所内で展示出来ないか研修所に相談したところ、休日でも有りセキユリテイの問題もあるが駐車場とロビーなら使用しても良いと快い返事を頂きました。作品展示に必要な資材は業者から借用することにしました。展示作品も会場の制約もあり最大50点とし山下常任理事に展示方法等は一任することにしました。（参考までに余技展は27日午後から28日の正午迄開催し250名近くの方に鑑賞頂きました）

あとは当日のタイムスケジュールをどうするか、常任理事以上の方や女性軍の協力を得て役割分担を決めました。総会は5月27日午後2時～3時迄、記念講演は引き続き野路会長にご講演頂き3時～3時45分、終了後サンルートへ移動し5時15分からパーティ開催と決めました。

残るのは、全会員に配布する記念品を何にするのか、対象者はOB会員、招待者等約2200名分近く準備が必要な事から、最終的にコマツのギフト商品（タオル、シャープペンシル）とする。これらを地区理事宛て送達し会員まで配布をお願いする事に決めました。総会当日は、天候にも恵まれ、早朝より常任理事以上の方達にお願いし、余技展の作品展示、総会会場準備、受付準備、来賓招待者、被表彰者等の対応等お願いし、総会兼記念式典を迎えました。



③総会会場の準備風景



④総会の風景

総会は竹田OB会会長の挨拶に始まり、高田常任理事の進行で時間通り終了しました。



①余技展展示会場の準備風景



②余技展会場の風景

その後、記念パーティー会場には、個々に車や迎えのバスでサントリーホテルへ向かい、参加者の受付やテーブル案内等で再度説明し会場へ案内しました。

丁度5時から記念パーティーを開催しました。記念パーティーの司会は、女性部の福井、谷口女史が担当し、竹田会長の挨拶後、OB会会員による仕舞が2曲演じられ、厳かな開宴となりました。その後栗津工場長による乾杯で、立食パーティーに入りました。出席者は400名近くでしたが、和やかに楽しく交流して頂き、最後にOB会員5名による、勇壮な大太鼓で1時間30分近くの間、記念パーティーを打ち上げしました。



⑤記念式典の来賓各位



⑥野路会長の記念講演

記念式典では、地区委員10年以上を務めて頂いた34名の方達の表彰とOB前役員を辞められる方2名の感謝状の贈呈後、野路会長に記念講演をして頂き、無事記念式典を終了する事が出来ました。



⑨藤田栗津工場長の乾杯



⑦記念パーティでの竹田会長挨拶



⑩OB会員による大太鼓



⑧OB会員による仕舞

最後に遠方から来て頂いた、各工場OB会各役員、本社社友会会長を始め今回の記念行事にお世話頂いた方達とサントリー地下の喫茶店で、懇親会兼反省会を開き全日程を終了しました。

40回記念行事の

余技作品展を振り返って

国府地区 山下久輝



コマツ栗津工場OB会の40回総会を記念すべく、総会の進め方、アトラクションの企画等について、昨年より数回にわたって役員会を開催してきました。その中でOB会員の余技作品展の開催を実施することになり、まったくの未経験者の私がその責任者として任命されました。

展示品の陳列をいかに予定の時間内でやり終える事が出来るかが一つのポイント思い、それ以来展示会場の見学を行なった。サイエンスヒルズ、小松市立博物館の1階にあるルフレやN.T.Tの展覧会場を数回見学しました。展示準備に約1日、展示期間2日、撤去作業に約2時間を目安にして準備作業にかかることにしました。

展示品の種類を「絵画」「写真」「書道」「生花」「手芸用品」の5部門に限定してOB会員に募集する事にしました。

① 絵画部門 油絵、水彩画、水墨画等に広く範囲を拡大。応募作品には、作品名、

額縁の縦、高さの寸法と製作する際に苦労した事を明記。

② 写真部門 作品名、額縁の縦、高さの寸法と製作する際に苦労した事を明記。

③ 書道部門 作品名、額縁の縦、高さの寸法と製作する際に苦労した事を明記。

④ 生花部門 テーブル寸法（90 x 90 cm）の制限と題材名および流派名の明記。

⑤ 手芸用品部門 展示名と展示スペースの明記。

いよいよ、「ルフレ」での会場のスペースと配置に着手する段階に入ったのですが、ここで小松製作所の方から旧小松工場跡地の、総合研修センタを利用して展示会を行っても良いとの連絡が入りました。非常にありがたい話であり40回記念行事の総会を「サイエンスヒルズ」で開催予定をしておりましたので総会と展示会場が隣同士となり、OB会員の方の集まりと会員の流れを考えると非常にベターな方法と役員一同大変喜んだものです。早速、コマツの総合研修センタを訪れ金子部長さんと打合せを行いました。総合研修センタの玄関を入ってすぐの、ロビーを展示会場としてお借り出来ることとなりました。

日程的には、金曜日の午後の5時以降から土曜日、日曜日の午後5時までの間、使用可能とのこととなりました。

展示期間の見直しを行い、金曜日の5時以降に展示器材の搬入完了とし、土曜日の午前中で展示品の持込みと展示を完了させることとしました。午後の総会の出席者に合わせて

午後0時より展示会場をオープンする事に決定した。展示機材は、(株)イケガミにお願いし5月26日の金曜日の午後5時以降に搬入完了しました。

翌日の土曜日は、朝から出品の受け付けを行い、絵画部門に7出品、写真部門に9出品、書道部門に4出品、生花部門に2出品、手芸用品部門に2出品と多くのOB会員の方のご協力をしていただきました。生花部門ではわざわざ金沢地区の西広子さんにも参加をいただきました。

また、朝早くから作品の展示に稚松地区の釜本隆司さんにご協力とご指導をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで、予定の午前中での展示品の作業を終える事が出来ました。

展示期間中には、多くのOB会員のご来場をいただくと共に、小松製作所の取締役 野路会長さんにもおいで頂き展示品を熱心にご覧いただきました。

盛況に終わることができ計画、立案に約6ヶ月かかりましたが、ここにOB会員と関係者各位のご協力に感謝申し上げます。

※なお本余技展の出品作品を写真に撮り、まとめて頂いたのが、31頁32頁の写真です。これは展示現場で写真を撮り、日の光や影、または蛍光灯の光など、周りにあるものすべての影などを、一点一点時間をかけ取り除いてきた作品です。

作者は上小松地区の北川順士さんです。

第四十回物故者追悼法要を高野山にて執行する

延べ一千九百十一名の先輩のご冥福を祈る

南紀・白浜温泉の旅（国内旅行を兼ねて）



期日 平成29年10月25日（水）

午後0時30分～

場所 高野山「コマツ慰霊碑」前にて

平成二十九年度の物故者追悼法要は、十月二十

五日（土）午後0時半から、昨年度亡くなら

れた八十名を含む、OB会設立以来の物故会員

延べ一千九百十一名の諸先輩を偲び、厳粛なう

ちに法要を行いました。追悼法要は、五年毎に

高野山にて行いますが、今年が丁度五年目の年

にあたり、遺族の方々やOB会員合計八十五名

が参加され、バス二台に分乗し前日小松を出発

しました。白浜温泉で一泊し、千畳敷を見学後

高野龍神スカイライン経由で一路高野山へ。

高野山が近づく頃から濃霧となり、予定より

一時間近く遅れてようやく到着。あわただしく

持参した法名軸を並べて法要の準備を行う。



法要は向井良夫事務局長の司会ではじまり、

最初に竹田敏洋OB会会長が挨拶を行い、次に

大橋徹二コマツ代表取締役社長（兼）CEO、

柳原公雄コマツユニオン中央執行委員長、藤田

直樹コマツ執行役員栗津工場長、北瀬利樹コマ

ツユニオン北陸支部執行委員長からの電報又は

メッセージが披露されました。



このあと、高野山「大明王院」ご導師様による
お経があげられる中、昨年度亡くなられた方で
今回参加された方のお名前が読み上げられ、ご
遺族がお焼香、続いて参加者全員が順次焼香を
行いました。

ご法話のあと、ご遺族を代表し、上小松地区
の故福田栄一様の奥様である福田則子様より謝
辞が述べられ、厳粛なうちに終了しました。

風が強く肌寒い中でしたが、幸い雨に会うこ
ともなく無事おえることが出来ました。終了後
は昼食をはさんで、「奥の院」をガイドさんに案
内していただき、参拝しました。

なお前日は黒潮市場でのマグロの解体ショー、
湯浅醤油の見学やショッピング、道成寺の参拝
などを楽しみました。

海外旅行 ベトナム

ハノイ&ホーチミン

日時 11月8日(水)～11月12日(日)

一昨年、昨年と参加希望者が少なく、止む無く中止となった海外旅行ですが、今回は20名の参加で三年ぶりの海外旅行を行うことができました。

【1日目】小松空港を11時過ぎとゆつくり出発。羽田経由成田空港へ。成田からハノイまで6時間半、夜遅くホテルへ。さすがに疲れた。

【2日目】世界遺産「ハロン湾」観光へ。昨夜空港へ出迎えてくれたJTB現地職員のガイドさん、流暢な日本語での案内、片道160kmのバスも楽しい。到着後クルーズ船にて湾内を観光。「海の桂林」といわれる、巨岩群は目を楽しませてくれる。シーフードランチもおいしい。最後に天宮(ティエン・クン)島で下船、神秘的な鍾乳洞も見学した。

【3日目】午前中はバスにてハノイ市内の観光。いたるところで出勤風景に出会うが、バイクの波。信号が少なく、交通ルールも余り守られていないような光景だ。柱一本で建っている、「一柱寺」やベトナム最古の大学と言われる「文廟」などを見学。「文廟」のあちこちで、民族衣装のアオザイで着飾った若い女性が写真撮影している。聞いてみると結婚用の前撮りとのこと。午後は観光コースと工場見学コースに分かれた。観光コースは陶芸の村「バッチャン村」の工房やショッピングセンターを見学。工場見学コースは、ハノイ郊外タンロン工業団地内にあるコマツの協力企業である長津工業と東亜電気工業の現地法人の2社を見学させていただいた。(詳細は別掲の阿木清隆さんのレポートを参照下さい。)ハノイでは3日間、大きな雨に会うこともなく、過ごしやすい気温でした。

【4日目】早朝の国内便でホーチミンへ。ハノイと異なり、気温も30度を超え湿度も高く、汗をかきながらの観光です。昼食後バスで市内を観光。フランス統治時代のコロニアル建築である、中央郵便局や聖マリア教会を見学。安い雑貨から生活用品、食品なんでもある「ペンタイ市場」で市民の熱気を感じ、「ドンコイ通り」でショッピング。夕食後空港へ。夜行便で日本へ。

【5日目】予定通り早朝羽田空港へ到着。国内線に乗り換え、小松空港へ無事到着。お疲れ様でした。

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	予定(宿泊地)
1	11月8日(水)	小松空港発 羽田空港着 羽田空港発 成田空港着 成田空港発 ハノイ着 ホテル着	11:10 12:15 18:30 22:55 24:30頃	JL186 リムジンバス JL751 専用車	空路、羽田空港へ 成田空港へ(約1時間15分) 空路、ハノイへ 到着後、現地ガイドと合流 専用車にてホテルへ(ハノイ泊)
2	11月9日(木)	ハノイ	8:00 12:00 15:00 19:00 21:30	専用車	終日：世界遺産・ハロン湾1日観光 ハノイより160Kmにあるハロン湾 昼食は船内でシーフード ハロン湾出発 夕食は中華料理 ホテル着 (ハノイ泊)
3	11月10日(金)	ハノイ	9:00 12:00 13:00 16:00 13:00 16:00 18:00 20:30	専用車 送迎車 専用車	午前：ハノイ市内半日観光 ○ホーチミン廟○一柱寺○文廟 ○ホアンキエム湖 昼食はベトナム料理 (観光コース)ホテル発 パチャン村半日陶磁器工房見学 パチャン村発 (工場見学コース)ホテル発 長津ベトナム、ジェイテック(東亜電機工業)見学 工場出発 各コース合流後、ホテル発 夕食はベトナムフレンチ ホテル着 (ハノイ泊)
4	11月11日(土)	ハノイ ハノイ発 ホーチミン着 ホーチミン発	7:30 10:00 12:10 19:00 21:00 23:50	専用車 VN227 専用車 専用車 JL70	空港へ 空路ホーチミンへ 到着後、現地ガイドと合流 昼食は中華料理 午後：ホーチミン市内観光 ○サイゴン大教会○中央郵便局 ○ペンタイ市場○ドンコイ通り 夕食はベトナム海鮮料理 タンソンニヤット国際空港へ 空路、羽田空港へ (機内泊)
5	11月12日(日)	羽田空港着 羽田空港発 小松空港着	6:55 9:25 10:30	JL185	(入国審査後、荷物受け取り) 空路、小松空港へ

ホテル：「ハノイホテル」(3泊とも)



南紀白浜温泉を訪れ

寺井地区 前田昭則



今年のOB会国内旅行は、南紀白浜温泉と、5年に一回開催される栗津工場OB会主催の高野山での物故者法要参拝を兼ね1泊2日のバス旅行でした。参加して大変楽しい思い出を作る事が出来ました。1日目が南紀白浜温泉泊りで翌日は高野山参拝と言う日程で行われました。参加者は85名でバス2台に分乗して早朝小松を出発しました。参加者は女性が60名と大変多く、バスの中もお茶菓子をしやぶりながら談笑に花が咲いて時間の過ぎるのが早く感じられました。途中幾つかの史跡や観光地を巡り、本日の宿泊地南紀白浜に5時30分頃到着しました。私は、40数年前、汽車と電車で、大阪駅経由南紀行きで、家族旅行をして以来の南紀白浜温泉行きでした。今回はバス旅行で、途中に観光名所を巡りながらのゆっくりとした旅行で、当時を思い出し又時代の違いを感じながらの旅行でした。

当時の白浜温泉は、新婚旅行の行き先として有名で、近辺の片山津温泉みたいな感じの温泉地だと記憶に残っている。白浜温泉での



参加者一同記念写真（千畳敷にて）

思い出は、息子と一緒に、波打ち際に作られた天然の露天風呂から眺めた、夕日の素晴らしさ、時折波を被りながら息子とはしゃいだ事が忘れられない。ホテルに到着後、即風呂に向かう、風呂は波打ち際ではなかったが、昔と変わらない夕焼け雲を眺め、ゆっくりと湯船に浸かる。女房や息子から、前回訪れたホテルの、露天風呂に入って来いと念を押されていたので、明朝に期待して、旅館の案内所で、ホテルの名前を尋ねると、昔と名前は違うが、波打ち際にある天然の岩風呂温泉は、車で2〜3分の所にあるとの事、入浴時間は朝5時からOKとの情報を得る。翌朝に期待したが、残念朝寝坊で波打ち際の岩風呂は断念、家族の怒りは、時間がなくて行けなかったと謝るか。高く付くが他のお土産で誤魔化すか。

旅行2日目、心配した天候も好天に恵まれ、ホテルを8時出発、高野山に向かう。高野山は標高1,000m近くの高地にあるため、登るにつれ霧がかかり視界が悪くなり、今にも雨が降りそうな天候になってくる。12時前、無事駐車場到着する。雨は降っていないが、バスを降りるとコートがいくらい肌寒い。

高野山は、和歌山県最北部にある山で、海拔985m南北2km東西6kmの盆地にあり、全国の高野山真言宗4,000ヶ寺の総本山で、檀上伽藍と奥の院の2大聖域を中心として177の寺院が有り、西暦816年に、空海が真言宗の総本山金剛峰寺を建立創建し1,200年の歴史があると言われています。昼

食時間でしたが、先に参拝と物故者法要すると言う事で慰霊碑に向かう。コマツの慰霊碑は、昭和51年5月に創立55周年を記念して建立されました。場所は、駐車場から5分程度歩いた、奥の院に向かう道の際で参拝し易い場所に有ります。慰霊碑の前には、既にテントが張られ、僧侶が待機されておられました。持参した法名軸をセットし、向井事務局長の司会で、5年に一回の栗津工場OB会の物故者法要が開始されました。僧侶の読経の下、竹田会長に続いて参加者全員が焼香を行い物故者の霊を弔う。

最後に今年亡くなられた遺族を代表して謝辞が述べられ、式典も厳かな内に30分程で無事終了する。

昼食後、ガイドの案内で奥の院を観光する。無明の橋で一礼して、俗世間と決別し奥の院境内に入る。橋を渡って直ぐ左手にある弥勒石の話聞きながら浄土の領域を散策する。弥勒石は、空海（弘法大師）が中国から持ち帰ったと言われ、片手で持ち上げると、ご加護があると言われている。弥勒の浄土を満喫し、奥の院の参拝も無事終える。3時過ぎバスに乗り込み、高野山を後に、大阪経由で一路帰宅の途に就く。途中差し入れの弁当を食べ、9時頃小松に到着しました。今回の旅行で、遺族の方と、亡き故人の現役時代や現況を語り合うなど、OBならではの、共通の話題で話が出来ました。次回も健康で必ず参加したい、お互い頑張りましょうと励まし合い散会しました。



物故者法要の参拝者たち



僧侶による読経



参拝者の皆さん

海外旅行 通算 27 回目

OB 会ベトナム 5 日間の旅

2017 年 11 月 8 日(水)～12 日(日)

稚松地区 釜本隆司



今回の旅行の訪問先で、ホーチミン市は以前に OB 会で訪問したことがあった。新たな興味をもって参加できるか、また参加人数により旅行代金も異なり気をもんでいた。会長・事務局長の努力で何とか 20 名を集めることができ、3 年ぶりに海外旅行の出発を迎えたのだった。

1 日目(11 月 8 日)

午前 10 時まで小松空港に集合。朝のあわただしさもなく至ってゆったりとスタート。若い女性の吉田添乗員から資料を受け取り、各自搭乗手続きをし、羽田空港へ。羽田空港からはデラックス専用バスで成田空港へ。一行 20 名は 18 時 30 分日本航空便で一路ベトナムの首都ハノイへ。機内は日本人のスチュワデスで全てスムーズ。意外と混んでいて満席であった。

22 時 35 分(日本時間 24 時 35 分) ハノイ空

港到着。気温 25℃、少し蒸しっていて雨の歓迎。24 時 30 分ホテル着。日本では真夜中のに一行は元氣。2 時間延長の少し長い 1 日であった。

2 日目(11 月 9 日)

今日は、今回のメインイベント：世界

遺産・ハロン湾を観光。

(ベトナムには 8 か所の世界遺産あり)

朝の出勤ラッシュを避けるため早めにと 7 時 50 分ホテル出発。道は東南アジア特有のバイクの嵐。皆ヘルメットをかぶり(指摘：顎ひもゆるい)おとなしい運転。乗用車・大型車は少しでも前にと巧みな運転。目的地ハロン湾まで 160 km、4 時間乗車。高速道路建設中で来年 2 月完成予定。2 時間で行けるとのこと。

その間を利用して知識豊かな現地ガイド Mr・カイン(慶)(俗称：慶応ボーイ)がベトナムについて基礎情報の提供(ベトナム戦争など内容の濃い質問もあり)。

ガイドの話

- ・交通渋滞を避けるための地下鉄・電車はなく、自転車・バイク・バイクタクシー・バスで通勤。

- ・バイク保有率は都市では 1 台/人 2 人乗り OK 子供を含め 4 人乗りも。ヤマハ・ホンダが多く昔の“ホンダカブ(50cc)”のイメージ(見た限りもう少し馬力ありそう)。

- ・ベトナム国民の平均年齢 30 歳弱、平均寿命 男 72 才・女 76 才、子供は 2 人まで(3 人以上

罰金：1 か月の肉体労働)若い国で将来が楽しみ。

- ・1941 年王政廃止、以後漢字表記の義務がなくなる。

- ・失業率は 2・4%で仕事はえり好みしなければ多くある。定年は男性 65 才、女性 60 才、給料は 3～5 万円(日本の 1/5)。

- ・朝食は外食が多い。

- ・預金金利は 7%/年(意外と高い：日本でも昔そうであった)。

- ・企業は朝 8 時から夕方 5 時(9 時から 6 時もある)残業はほとんどなし。

- ・教育は 5・4・3 制で、週 6 日間(小学校 8 時、中学校：7 時 15 分始まり)午前と午後

- の 2 部制(児童数が多いため)。
- ・左ハンドルで、最高速度は乗用車 90 km/h(高速道路)。追越すときはシグナルで相手に知らせながら反対車線に(運転がうまい)。18

- 歳でバイク、20 歳で乗用車の免許取得可能。

- ・社会主義国だが、土地は個人(国有制でない)持ち、土地代は 30 万円/m²と高いため購入が難しい。

- ・建物は間口で課税。そのためスマートなノッポの家(3～4 階建てで子供夫婦と同居)が多い。

- ・地震無し。建物は 20 センチ角の鉄筋柱で、壁はレンガ積み。

- ・火山はないが、温泉あり(中国からの流れ込み)。

- ・宗教はイスラム・仏教：各々 10%その他は無宗教。でも仏壇のある家が多い。

・気候はハノイでは4季（春夏秋冬）・ホーチミンでは2季（乾季・雨季）。
 ・稲は北部では2期作、南部では3期作。
 ・野良犬・猫はいない（ホーチミンでは少しいた）。
 ・観光客は、年間 中国40万人、韓国10万人、日本7万人。

ハロン湾への路は混んでなく、途中、日系企業も多く見えた（工場内では自転車・バイク置場が意外と大きくとられていた）。ハノイには1万人の日本人駐在員。
 バンチャイ橋を渡り、ターミナルで棧橋を渡り立派な専用船へ。

早速、海鮮料理の昼食開始。船が寄ってくる、ぴんぴんした新鮮な魚を、その船で料理してくれる（めいめい購入、私はシャコを購入）昼食はアサリに始まり、途中で景色を見に屋上に、食事は女性陣に好評。果物船も横付け、“ライチ”（会長より差し入れ）も旨い。



夫婦岩をバックに（ハロン湾）



鍾乳洞（ハロン湾）

ハロン湾は中国桂林と同じ山脈帯（石灰石）で、下船して見学した鍾乳洞は425段の階段と脅されたが、あまり辛くなかった。桂林での鍾乳洞に比べると少し老朽しているように見えた（あるいはまだ若い？）。地下水が滴り落ちてできる白い柱が見えない（水が枯れているのか？）3時間のクルーズも楽しくあつという間に終了。来た道をホテルへ。道中、大きなお土産店（建物は中国・韓国・日本欧米人に分かれている）店員は日本語がうまい。こちらが品物選びに迷っていると、これが良いですよと薦めてくれる。ハロン湾への往復で、トイレ休憩を含めて立ち寄りし、お土産をどっさり購入。（蓮芯茶、ココナッツクッキー、ココナッツオイル etc.）

夕食はホテルのレストランで、疲れた体にやさしい中華料理をいただく。

3日目（11月10日）
 今日主に市内観光 出発時刻は通勤帯をさけ、8時45分とゆつたり。朝から暑い、少し蒸している。TシャツでOK。朝食後ぶらぶら散歩。大きな湖がホテル裏にあり庶民の憩いの場になっている。土地の女性達が、設置されたトレーニング器具を使って筋トレ。誘われて奥様が仲間に入り、手とり足取りの指導で体の位置を決めトレーニングもどきの体験。
 午前中は市内観光。



文廟でのアオザイ（ハノイ市内）

① 文廟（孔子廟） 1076年ベトナム最初の大学で、今はその遺構が手入れされて残っている。落ち着きのある庭園。（若い女性に人気、白いアオザイを着て卒業記念撮影をしていた）

② 一柱寺 1049年建立の仏教寺で、池のハスに囲われて1柱の上に建物。

③ ホーチミン廟 残念ながら近道が工事で車窓から

④ ホアンキエム湖（剣観湖）剣に関係あり剣を釣り上げた豪族が戦争に勝ち、その後、湖の主に戻してと乞われ返却したとの民話がある。町の中心で人も多い。シクロ（人力車）がたむろしている。

各国の首脳がベトナムのダナン（ハノイとホーチミンの間）でエイペックの会議をしている関係で、国際会議所付近は警備も厳しく道路閉鎖時刻ギリギリで通過。

午後はグループ1：近郊のバッチャン村グループ2：みどり会企業（長津ベトナム様・ジェイテック・ハノイ日本名東亜電機工業様）見学と2つに分かれての行動。

私はバッチャン村へ。陶磁器で有名なところで、付近では白い粘土が多く採れる。白磁・青磁を製作している。3軒の有名な店があり当時の王様より特別なハンコを商品に押すことが許されていた。最近是他の村から持ち込みするあくどい商売もある（他所のものは素材に鉛が含まれている可能性があるとのこと）。

その1軒を見学。小松市にも残っている登り窯の模型もあった、工房は6階建てで上のほうで製作、下で販売。一行は九谷焼で目も肥えており購入には至らず。

夕刻、ホテルロビーで出発までの間に玄関前に出てみた。夕方5時過ぎで町は混雑。20人以上の小学生が玄関前に“小学生か”と、酔っている私が、つたない英語で質問し

たが応答なし。（酔っぱらいは相手にしない？） 背中に担いでいるザックを持ち上げてみたがそう重くなかった。親との再会の場を見たかったが残念ながら、その機会はなかった。

夕食は長津ベトナムの3名様も一緒に久しぶりに日本酒をいただく。ここでサプライズあり。永守さんの誕生日。♪皆さんでハッピーバースディを歌って祝う♪ ケーキをいただく。本人は照れながらも嬉しそう！



バースディケーキ

4日目（11月11日）、最終日（11月12日）
ホーチミンへの移動、市内観光、出国の日

ハノイ空港からの出発は乗り込んでから30分遅れ（エイペックの影響？）。

1300 km離れたホーチミン空港到着。日本ではエンジンの逆回転で着地後うるさい

が、滑走路が長く静かに着陸（ハノイでも同様）。ベトナム最大の都市はにぎわっており、気温は31℃少し霧がかかっている（中国のガスと異なるとの現地ガイドの弁）。ベトナムで初の地下鉄、その工事を日本のジョイントベンチャが請け負っている。3年先には郊外20 kmまで開通予定。

昼飯後市内観光

① ベンタン市場（市内最大で日用品なら何でも揃う）賑わっている。

② サイゴン大教会 中央郵便局 どちらもフランス植民地時代の建物

③ ドンコイ通り ある店を拠点に90分の自由時間。日本語が意外と通じる。気に入ったものを購入。（皮製品etc.）



ベトナム古典楽器の演奏

最後の晩餐はランタンの飾りで有名な高級レストラン。ベトナム古典楽器の奏でる日本の歌“ふるさと”、“涙そうそう”などを聴きながら優雅に食事。初めて地酒を少ししたし

なむ（度数は40度）。

空港で日本への服装に着替え真夜中に出発。羽田空港で入国。羽田空港から小松空港へ久しぶりの小松の空は青かった！ 無事帰宅。添乗員、役員の方々、皆様、有難うございました。お疲れさまでした！

「雑感」

- ・ホテルは3日間移動なく、またゆったりとしたスケジュールで心身とも癒された。
- ・食事はどこも我々の口に合い量も含めて大変好評。お陰様で体重3kgオーバー。
- ・専用バスはいずれも大型でデラックスで1人ずつゆったり座れて、リッチな気分を味わった。
- ・ベトナム人の対応は親目的で嬉しかった。
- ・折り紙を通じて旅先の人々と交流を広めた
- ・いた中村博氏（白山市）の死去が帰国日の新聞に掲載されていて感無量だった。（彼は今回も参加予定であった！）
- ・ご冥福を祈ります。
- ・集合写真でOB会の横断幕がみえなくて、ちよつぱりさびしいネ。

海外旅行 通算27回目

ベトナム現地協力工場

見学記録

山代山中地区 阿木清隆



期日 平成29年11月8日（火）～11月12日（日）
行先 ベトナム（ハノイ・ホーチミン）五日間の旅

OB会の海外旅行は過去2年間参加人数に達せず残念ながら中止となっていました。今年には参加人数20名となり、実施できることになり、先ずは御礼申し上げます。

今回私は11月10日午後1時から4時まで、二つのコースに分かれて行動することになり、その二通りのコースとは、「バッチャン村陶磁工房見学コース」と「長津ベトナム（株）とジェイテック・ハノイ」見学コースです。私は長津ベトナムとジェイテック・ハノイ」コースを希望しました。私はベトナムに進出した日本企業が困難に打ち勝ってコマツに製品を提供している工場を見学したいという思いが強く、このコースに決めました。二社とも、コ

マツの協力会社で北部首都ハノイに在り、大きな「タンロン工業団地」の一部にあります。

竹田会長・向井事務局長・私他2名の計5名でホテルまで迎えに来ていただいた。長津ベトナム様の車に乗り団地までは15分程で着きました。

長津ベトナム工場では、池田社長・森副社長・位田部長らが私達を迎え歓迎していただき大変感激しました。直ぐ応接間に通され、池田社長より会社概要説明がありました。

設立： 2007年6月4日

創業開始： 2008年7月1日

資本金： US\$4,000,000

敷地面積： 二万九千八百八十七㎡

工場敷地面積： 五千五百㎡

企業ライセンス： 輸出加工企業

主要製品： 油圧ブロック アイテム数 170

ブラケット アイテム数 46

品質マネジメントシステムとして、2014年ISO9001:2008を認証取得。

ベトナム従業員 94名

日本人駐在員 3名

従業員平均年齢 26歳

平均勤続年数 2.8年

そこでベトナム人の長所と短所をお尋ねしたところ、長所：真面目で手が器用。指示すると行動が早い。短所：不具合品等を出した時、対策が、日本人と比較して弱い。QCでいうPDCAのD（行動）は非常に早い。しかしC（チェック）とA（アクション）が弱い。また従業員を採用しても長続きしない。中に



長津ベトナム社長との記念写真

は半日で辞めてしまうため、社長の話によると、その辺は割り切って日常の業務にあたっているとのことでした。

その後工場見学になり、日本製横型・縦型マシンングセンタ・CNC旋盤・溶接ロボット・3次元測定器・表面性状測定器等計35マシン・設備があり従業員はキビキビ作業しており、大変印象も良かった。製品の外觀品質はパッキン当たり面・ねじ山の面粗も美しく、また手入れ作業も丁寧に仕上がっていました。また溶接部の外觀品質も私の見た範囲において良くできておりました。

最後に長津ベトナム・池田社長・森副社長・位田部長と一緒に記念写真を撮り、社長自ら案内してくださったことにも触れ、お礼を申し上げお別れました。次にジェイテック・ハノイを見学させて頂いた感想を書きますが見学の順番はこちらが先でした。ジェイテック・ハノイは東亜電機工業株式会社の現地法人です。

まず岩城社長による会社の概要でベトナムの正式国名は「ベトナム社会主義共和国」、面積は日本の88パーセント（約33万²㎡）、人口9,340万人、平均年齢30.4歳。日系進出会社数1,553社。日本への輸出では、コマツ60%、コベルコ、日立、その他で40%。一人当たりの給料は約2万円とのことでした。主要製品として、ワイヤーハーネスを製作していました。

私は入社以来検査部門にいましたので、複雑なワイヤーハーネスの図面を見ながら不具合箇所が無いか検査したことがあったため、このような複雑な部品を間違いないで作る工程を自分の眼で確認することができの、楽しみにしていました。

まず最初に案内されたところは電線保管庫です。各種の電線は間違えないよう「色」によって区分けできるよう管理されていました。次に組付工程場に案内されましたが全長約3m、約10本前後まとめ、束にし、その間何箇所もの取り出し線数を、間違えないようにするため実物大の大きさの図面（しかも、その工程に必要な項目のみ記載されている図）を

見ながら、その上で作業をしていました。また一歩手前最終工程では何箇所もある取り付け部分に電流を通し電流が繋がっているか、ランプに依って確認していました。

最後の工程検査では、実物大のモデル品を作業台の上に乗せ、その上に検査品（ワイヤーハーネス）を載せベテラン検査員に依りキズ、形状等をチェックシートによって全数箇所チェックされていました。複雑形状の作業も各工程毎に「見える化」によって作業を進め「ヒューマンエラー」を防いでいました。私たち全員がワイヤーハーネス製作しているところを見たことがなかったので大変感心しました。

今回2社見学する機会を得ましたが、社長自ら私たちに工場の概要・案内の時間を作っていたありがたいとございました。最後にいずれの会社とも工場見学の時、私たちと目が合うと軽くエシヤク、または元気な声でコンニチワと挨拶が出来ており、私たち現役時代を思い出し挨拶の大切さを気づかされました。

今回も、全員元気で、旅を和やかに終えることが出来ました。同行の皆さま大変ありがとうございました。

平成二十九年
スポーツ・文化・共済・ボランティア 活動報告

第十九回 グラウンドゴルフ大会

□開催日 6月28日(水)

□場 所 小松市民センター多目的広場

□参加者 92名

□大会成績(4Rスコア)

男性の部

優勝 長 英男(矢田野) 70

準優勝 山西外之(東陵) 71

第3位 新谷俊英(粟津) 71

第4位 辻 貞美(御幸) 72

第5位 大嶋義秋(矢田野) 72

女性の部

優勝 戸井とよみ(今江) 76

準優勝 儀田紀子(八幡) 76

第3位 内田美枝子(今江) 79

ホールインワン賞(指定ホール)

戸井政明・萱森寿治・吉川正雄・田中祈良志
工藤正俊・栗田金次郎・奥村辰司・能登富雄

(以上八名)



第十七回 パークゴルフ大会

□開催日 10月4日(水)

□場 所 木場潟公園 メダカコース A/B

□参加者 47名

□大会成績(2Rスコア)

男性の部

優勝 増田克己(芦城) 101

準優勝 中村 捷(御幸) 102

第3位 吉川正雄(符津) 104

第4位 染井弘之(寺井) 105

第5位 上田正雄(根上) 105

女性の部

優勝 太田美智子(八幡) 105

準優勝 川原フミ(月津) 109

第3位 坊田房子(御幸) 116

ホールインワン賞

中村 捷、上西雄次、奥村辰司(以上三名)



第十七回 ゴルフ大会

□開催日 9月26日(火)

□場 所 小松カントリークラブ

□参加者 68名

□大会成績(Wペリア方式 スコアはネット)

優勝 塩田良治(粟津) 71・6

準優勝 松林廣中(辰口) 72・0

第3位 山本郁夫(根上) 72・4

第4位 角谷克己(福井) 72・6

第5位 浅本博司(東陵) 73・0

ベストグロス賞 松林廣中(辰口) 84

優勝された塩田良治さんは九月に行われる、
コマツシニアオープンのプロアマ戦に出場します。



第五回 文化祭を開催

□開催日 11月22日(水)

□場所 コマツ松風荘(小松市木場町)

□参加者 約八十名

①文化講演会

「IoTと人工知能(AI)」

講師 石川県工業試験場

電子情報部長 上田 芳弘氏



②カラオケ大会 出演者14名

最優秀歌唱賞 杉田 登(湯谷)
優秀歌唱賞 横山信一(上小松)

同 宮浦 勉(国府)

特別賞 坂下俊一(国府)

③囲碁大会 参加者12名

Aグループ優勝 中谷秀夫(山代山中)

同 準優勝 堂道剋良(犬丸)

同 第3位 中野昭彦(東陵)

同 第4位 北口邦男(符津)

Bグループ優勝 横田謙一(金沢)

同 準優勝 明地輝夫(金沢)

同 第3位 中西文雄(寺井)

同 第4位 谷家将夫(符津)

④将棋大会 参加者16名

Aグループ優勝 堀川一成(月津)

同 準優勝 柴田忠雄(福井)

同 第3位 宮川 満(松任)

同 第4位 上田幸久(国府)

Bグループ優勝 松本 譲(国府)

同 準優勝 村田真二(根上)

同 第3位 西村賢司(御幸)

同 第4位 松山健次(根上)



⑤折り紙教室

講師 前田昭則氏(寺井)

参加者 6名



大会要領とともに、段級位によりA・Bグループに分け、予選を戦った結果、成績上位4名の決勝トーナメントで順位を決定

米寿のお祝い

平成29年めでたく米寿を迎えられた昭和四年(1929)生れ25名の方々にお祝い品をお届けしました。(カラーページ)

北次秀雄(美川・川北) 二口良幸(美川・川北)

北嶋作次(根上)、萩原信行(根上)

長田豊一(寺井) 中町光昭(辰口)

表 幹夫(辰口) 山田盛一(国府)

橋本文雄(国府) 浜崎 豊(国府)



源 清次（中海） 橋川正次（能美）
 中山 勇（中海） 南出哲男（八幡）
 川之上 悟（安宅） 八木雪子（牧）
 塚野昭三（稚松） 中村 精（稚松）
 河合外二（向本折） 中村紀己三（今江）
 蔵 晴一（御幸） 見澤俊架（符津）
 山根久夫（山代・山中）、松山 学（大聖寺）
 奥江敏美（大聖寺）

長期重度療養者へのお見舞い

3ヶ月以上に亘り療養し、且つ介護度3以上と認定された方にお見舞いを差し上げました。

平成28年上期 8名 下期 9名

亡くなられた方への弔慰

平成29年4月から30年1月末までに亡くなられた方は次の通りで弔慰基準により弔慰を表わしました。

・会員本人の死亡 52名

お香典（一万円）、生花一基、弔電、OB会旗を掲出し、地区代表が弔問しました。

会社からは、社長名の弔電、工場長または事業所長名の生花をいただきました。

・会員配偶者の死亡 13名

お香典、弔電、地区代表が弔問しました。

・追悼法要の執行（別掲）

OB会設立以来、平成29年3月まで物故会員1911名の追悼法要を執行しました。

県退職者連合グラウンドゴルフ大会

□開催日 5月10日（水）
 □場 所 金沢市民芸術村広場
 □参加者 コマツから5組25名（全200名）
 □大会結果
 団体 4位（Aチーム）

里山保全に竹林間伐ボランティア

石川県退職者連合が行う里山保全活動の一環として、加賀市橋立自然公園に増えてくる竹林の間伐作業ボランティアに、今年度も参加しました。（春と秋の2回）

① 4月26日（水）

作業前から雨が激しく降り中止となる。

② 11月1日（水）

大聖寺地区会員と本部役員を含め16名が参加した。

こまつの杜ボランティア活動

こまつの杜が開設されて7年目をむかえ、すでに延べ30万人を超える方が入園されています。OB会では、次の4つの部会に分かれてボランティア活動を行っております。

●コマツ館スクスク教室部会

コマツ館2階の教室にて、小学生を対象に理科その他の学習、夏休みの宿題の手伝いを通じ、理科や物づくりへの興味を抱くきっかけとなるカリキュラムを作り実行。

●里山イベント部会

里山の木々、草花、小川などの自然観察を通して、こどもたちが自然に興味、関心を持ち、自然の中で遊ぶ楽しさを感じさせるようなイベントを企画し実行。

●里山グリーン部会

里山、広場、小川ゾーンでの清掃・落葉回収などの清掃ボランティア、および花壇の手入れ、季節の花植えボランティアを交代で作業にあたる。園児たちとの「花育」も行っている。

●サポート部会

超大型ダンストラック930E、ミニ油圧ショベルの試乗をはじめ、来館者やイベントなど、こまつの杜やわくわくコマツ館運営のサポートを行う。

こまつの杜OBボランティア 募集中！

新たにボランティア参加いただける方は、地区役員・委員に希望部会をお申し出下さい。

文化祭に参加して

芦城地区 福田幸代



今年も、OB会恒例の文化祭が開催され、私も友達と一緒に参加しました。会場の松風荘には、OB会会員や家族の方を含め総勢80名近くの方が参加されていました。先ず9時から、講演会が1時間あり10時からカラオケや囲碁将棋、折り紙教室等行われました。

講演会は、「IoTと人工知能（AI）」と言う、大変むずかしいようなテーマでしたが、小松製作所のコムトラックスを例に、ドローンを使ってICT建機で「施工の見える化」などやIoTとAI利用のメリットをスマホを使って事例を実演される等、時代の推移と共に人工知能をどう生かして行くのか解り易く面白く話をして頂き、大変勉強になりました。

講師は、県の工業試験場職員の上田さんと言う方でした。講演会終了後は、場所を変えて、カラオケ、囲碁、将棋大会が行われました。

カラオケ大会では、最優秀歌唱賞や優秀歌唱賞を目指し、歌手顔負けの熱演に会場から拍手喝采、出場者の皆さんも日頃の練習の成果を大いに発揮され楽しい時間を過ごされたよ

うでした。又囲碁、将棋会場でも熱気あふれる雰囲気の中で、優勝を目指しA、B各クラスに分かれ総当たり戦が、3時頃まで行われ、大いに盛り上がりつつあったようです。私が参加した折り紙教室は、参加者は6人と少人数でした。今回は講師の中村博氏が、先般病気で亡くなられましたが、佐伯さんや大川さんらの協力の下、和気あいあいと正月用の折り鶴をつくりました。出来上がった折り鶴を手に記念写真を撮り折り紙教室を終了しました。

その後、昼食を取りながら、中村さん亡き後、来年に向けての、折り紙教室の構想を練るなど意見交換をしました。文化祭で、OB会の家族の方や懐かしい同僚と会え、現役時代の楽しかったことや苦労話、亡くなられた方の思い出話など、話は尽きない一時を過ごす事が出来ました。皆さんから元気を頂き、来年も皆さんの顔が見られるよう願って、会場を後にしました。



折り紙教室で完成品を手に
参加者たちの記念写真

ウォーキングの集い

「関ヶ原合戦の史跡を巡る」

近郊ウォーク「安宅周辺」ウォーキングも実施

期日 平成29年6月14日（水）

場所 関ヶ原合戦史跡（岐阜県）

早朝六時に根上タント前を出発したバスは、小松末広体育館、JR粟津駅前より順次乗車して参加者四十七名は一路関ヶ原を目指す。素晴らしい晴天に恵まれ、北陸道及び名神高速道を経て予定通り九時三十分「関ヶ原町歴史民俗資料館」に到着。バスの中では、関ヶ原合戦について村中勝二さんから説明をうけました。



まずは全員資料館に入館し、合戦のわかる大型ジオラマを鑑賞して学習。出発点の駐車場で準備体操を行った後、午前十時にスタート。全長12 kmに及ぶ自分の体力にあつたコースで楽しみました。

●Aコース（12 km）；資料館→徳川家康最後陣跡→決戦地→石田三成陣跡→開戦地→小西行長陣跡→宇喜多秀家陣跡→福島正則陣跡→西首塚→本多忠勝陣跡→東首塚→資料館（ゴール）

●Bコース（7 km）；資料館→徳川家康最後陣跡→決戦地→石田三成陣跡→開戦地→小西行長陣跡→資料館（ゴール）この後JR関ヶ原駅前の「交流会館」など自由散策

昼食は石田三成陣跡到着後、各自思い思いに。帰路「あねがわ温泉」にて入浴し、疲れを癒す。

リーダーの二川さんをはじめ、終始サポートしていただいた、村中さん、西尾さん、釜本さん、河原さん、夏梅さん、中西さんありがとうございました。

安宅周辺ウォーキング

期日 平成29年10月11日（水）

場所 安宅周辺（安宅住吉神社・安宅関安宅漁港など）

今年の近郊ウォーキングは15名の参加者でしたが、天候にも恵まれ午前九時安宅海浜公園駐車場を出発。安宅住吉神社を経由してビューテラスへこの後は木曽町会館から潮止橋を渡り、梯川の堤防沿いに石田橋北詰めへ、ここでUターンして安宅漁港の北側を通り海浜公園入口の能美市との境界を経て海浜公園へゴール。約8 kmの歩きやすいコースを全員元気で歩きました。



米寿の皆さん おめでとうございます

平成29年に88歳の米寿を迎えられた25名の皆様には、心からお祝いを申し上げます。



根上 北嶋 作次さん

小松市北板津地区や旧根上地内のお手次のお寺の行事等企画・案内で家に籠っている暇がない。



美川・川北 二口 良幸さんご夫妻

耳が遠くなって、運転免許証は返納したが、毎日のデイサービス通い、規則正しい生活です。



美川・川北 北次 秀雄さんご夫妻

週4回通っているデイサービスでの仲間との談笑や運動が楽しい。



辰口 中町 光昭さん

脚悪くなり、3回/週のデイサービス通い。24歳で得度し道場を守り、子供や孫に囲まれて幸せ。



寺井 長田 豊一さん

好きな庭木や鉢物の世話と樹木の剪定作業をしている。



根上 萩原 信行さんご夫妻

自宅近くにある400坪の畑仕事、草むしりや季節の野菜作りで忙しく、一年があっという間にすぎる。



国府 橋本 文雄さんご夫妻

ご夫婦でのんびりすごしている。



国府 山田盛一さんご夫妻

奥さんは現在入院中だが、敷地内に息子家族もあり幸せだ。少しの田んぼも止めて、のんびりです。



辰口 表 幹夫さん

奥さんをこの春亡くして寂しいが近くに住む息子や娘が顔をだしてくれるのでありがたい。

昭和4年(1929)のできごと

- ◎ 張作霖爆殺事件(前年)で田中義一内閣総辞職
浜口雄幸内閣成立(7/2)
- ◎ 大蔵省金解禁の省令公布(10/21)
- ◎ 大卒の就職難が深刻
- ◎ ニューヨーク株式市場で株価大暴落、世界恐慌始まる



能美 橋川 正次さん

老人会の体操に参加したり、畑作業も頑張っている。



中海 源 清次さんご夫妻

週3回デイサービスに行っている。奥さんと二人楽しく助け合って暮らしている。



国府 濱崎 豊さんご夫妻

橋本(光)さん、北(敏)さん共元気なので、励みとなり「こまつの杜」で頑張っている。



安宅 川之上 悟さん

米寿の記念撮影です。



八幡 南出 哲男さん

まだ車に乗れて感謝。畑仕事に精をだしている。



能美 中山 勇さん

娘の嫁ぎ先の仕事を家で手伝っているし、犬の散歩、畑と忙しいが体を動かさないとだめになる。



稚松 中村 精さんご夫妻

夫婦とも元気です。



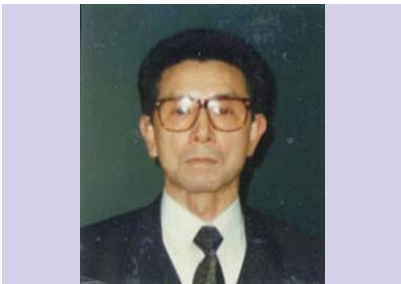
稚松 塚野 昭三さんご夫妻

夫婦とも元気です。



牧 八木 雪子さん

元気にしています。皆さんによろしくお伝え下さいとのことでした。



御幸 蔵 晴一さん

施設にて療養中です。



今江 中村 紀巳三さんご夫妻

(H30.2.1 ご逝去)



向本折 河合 外二さん



大聖寺 松山 学さんご夫妻
趣味の囲碁を弟と楽しんでいる。
来年の文化祭の囲碁大会に出場したい。



山代・山中 山根 久夫さん
毎日デイサービスのリハビリと風呂を
楽しみにしている。



符津 見澤 俊架さんご夫妻



大聖寺 奥江 敏美さんご夫妻
6歳の時、現在の韓国ソウルに居住
小学校は韓国で、日本に帰国時は
大変苦労した。来年の文化祭の将棋
大会に出場したい。

第40回記念総会フォト・ハイライト(1)

総会 H29. 5. 27(土) サイエンスヒルズ小松



参加された会員の皆さん



会場受付にて



議案審議

記念式典 H29. 5. 27(土) サイエンスヒルズ小松



野路会長の記念講演



来賓の皆さん



感謝状贈呈（退任役員）



表彰状贈呈（永年地区委員）



こまつの杜の活動紹介

第40回記念総会フォト・ハイライト(2)

記念パーティー H29. 5. 27(土) ホテルサンルート小松



竹田会長の開会挨拶



久しぶりの再会



オープニング余興「仕舞」



小松市長を囲んで



締め余興「大太鼓」

余技作品展 H29. 5. 27(土)～28日(日) 総合研修センタカフェテリア



(故) 中村 博さんの作品「連鶴」



折り紙を説明する(故) 中村 博さん

(中村 博さんは11月11日ご逝去されました。)



準備中



会員の力作



生け花と書

コマツ粟津工場OB会 第40回記念総会協賛 余技作品展

絵画部門



北 真佐男



中田 俊雄



釜本 隆司



山本 勇



宮川 明夫



河南 明夫



遠藤 豊子

書道部門



橋本 文雄



西村 義雄



辻 貞美



谷口 礼子

華道部門



西 広子



坂井 千恵子

コマツ粟津工場OB会 第40回記念総会協賛 余技作品展

写真部門



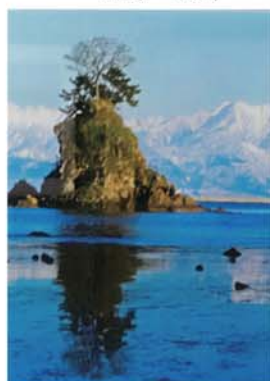
福島 健介



山野 一郎



高木 謙一



南 修二



北川 順士



森田 久信



川崎 則雄



水島 亮



沢村 勝義

折り紙・陶芸・手芸



中村 博



石田 咲雄



西村 まり子



河村 良平

平成29年度行事フォト・ハイライト(1)

第5回文化祭 H29. 11. 22(水) 松風荘



熱戦 (碁基大会)



文化講演会



熱唱 (カラオケ大会)



熱戦 (将棋大会)



折り紙教室

関ヶ原合戦の史跡を巡るウォーキング H29. 6. 14(水)



民族資料館前にて



開戦地



さあ歩きましょう



決戦地

安宅周辺ウォーキング H29. 10. 11(水)



安宅関にて



安宅漁港付近

平成29年度行事フォト・ハイライト(2)

第40回物故者追悼法要(高野山)&南紀白浜の旅 H29.10.24(火)~25日(水)



大明王院様の読経



参加者全員によるご焼香



ご遺族の皆さん



奥の院参拝へ

第27回海外旅行 ベトナム(ハノイ&ホーチミン) H29.11.8(水)~12(日)



世界遺産「ハロン湾」



アオザイを着て「前撮り」(ハノイ)



ホアンキエム湖にて(ハノイ)



ティエン・クン鍾乳洞(ハロン湾)にて



ベントイ市場(ホーチミン)



聖マリア教会
(ホーチミン)

地区活動 フォトメモリー



国府地区 遊泉寺町銅山跡公園清掃作業

H29.8.6 約30名

国府分会の年間活動の一つ、遊泉寺銅山跡公園の清掃作業を8月6日(日)午前7時から国府分会会長 橋本哲夫さんの挨拶、鶴川町の公園管理者 中出 晃さん(OB会員)の指揮のもと約30名で作業開始。約1時間、参加された皆さんの汗まみれの作業のお蔭で、一帯がきれいになりました。この後、西尾皓史さんから、去る7月に設立された「遊泉寺銅山跡整備事業実行委員会」の5か年計画や、企業版ふるさと納税制度を活用した遊泉寺銅山跡一帯整備について説明を受け、2021年のコマツ創立100周年まで元気に頑張りましょうと激励をうけました。最後に国府分会副会長の宮浦 勉さんの挨拶で、当地来訪の皆様へのささやかな「おもてなし」作業を終えました。(9月号会報で報告)

報告 山口 忠義(本村 孝)



松任地区総会・懇親会

H29.9.2 料亭「かつ新」20名

27年度より亡くなられた方(4名)へ黙祷、27年度より新しく会員となられた方(7名)の紹介、40回記念総会(5月)の報告、余技作品展に出品された高本謙一さん、中村 博さんへの感謝報告、OB会の組織などを説明、全員で記念撮影の後、懇親会に移る。自己紹介し、和やかな雰囲気で行った昔の職場の話や、「現在どうしているんや?」とか会話が弾み、時間を忘れて楽しいひと時でした。中村 博さんの締めで閉会とした。

報告 野田 正記



根上地区グラウンドゴルフ大会

H29.10.21 翠ヶ丘グラウンドゴルフ場 32名(男26、女6)

雲行きの怪しい空で開会したグラウンドゴルフ大会でしたが、雨にも降られず楽しく過ごすことができました。成績は下記のとおり。

優勝 松本 義昭
2位 助田 俊勝
3位 中田久吾郎

報告 北野 順一(南 修二)

地区活動 フォトメモリー



苗代地区 総会

H29.3.11 どん吉（吉竹町）18名

1. 総会
行事、会計、入退会報告
2. 懇親会
18:00より居酒屋「どん吉」にて実施。新会員が少ないなか、今年度は4名が死去され、会員数が減員、されど老人パワーはすごく、楽しい時間を過ごした。途中和田市長も参加し、政治論もあり、充実した時間をすごした。

報告 新谷 信秀



犬丸地区 総会

H29.3.4 南月（大川町）10名

- ① 会員異動の報告 物故退会3名 42→39名となった
- ② 28年度役員を決定
地区理事：今西 和夫
地区委員：高橋 進（城北・大島）
林 潔（蛭川）
中村 武司（犬丸・松梨）
今西 和夫（島田・梯）
- ③ H27年度会計報告

報告 今西 和夫



蓮代寺地区 総会

H29.3.5 松風荘 11名

- ① 28年度活動報告、承認
- ② 28年度決算報告、承認
- ③ 三谷町2名の退会報告、承認
- ④ 三谷町の次年度の代わりの委員は宮岸 修さんに依頼、承認

報告 谷舗 一矢



松東地区 総会

H29.3.23 松風荘 11名

- ① 会員34名中11名参加し、28年度総会及び懇親会を開催した。
- ② 28年度に死亡された会員の方のご冥福を祈り、又新規会員の紹介をした。
- ③ 29年度の地区理事及び地区役員を紹介し、承認された。
- ④ 28年度の会計報告をし、承認された。
- ⑤ 懇親会では、和気あいあいと歌を歌い、話をし、親交を深めた。

報告 小倉 政信

地区活動 フォトメモリー



御幸地区 総会

H29.3.11 まる美寿司（串町）26名

総会では、行事報告、会計決算報告が承認され、新入会員（5名）、転出会員（2名）、物故者（2名）を報告後、物故者のご冥福を祈り黙祷を捧げました。懇親会には和田市長も特別参加され、小松市現況報告をされた後、全員和やかな雰囲気の中で歓談し、楽しい時間を過ごした。

報告 木戸浦 勇



稚松地区 総会

H29.3.19 浜田町会館 21名

総会ではH28年度活動状況ならびに会計報告があり世話人の選出と合わせて、承認されました。

引き続き、懇親会ではビールや日本酒を飲みながら会員相互の近況報告で親睦を深め、更にビンゴゲームで楽しいひと時を過ごしました。

報告 釜本 隆司



御幸地区 グラウンドゴルフ大会

H29.9.6 串川緑地グラウンドゴルフ場 18名

串川緑地グラウンドゴルフ場にて、AM9:00より小雨の中でOB会員及び家族の参加でスタートしました。30分後には雨も上がり、ボールが思うように入りませんが、賞品の獲得を目指して、一喜一憂しながら楽しい時間をすごしました。

報告 木戸浦 勇



安宅地区彦根城など観光旅行

H29.4.12 滋賀県彦根市、琵琶湖など 5名

海津大橋桜クルーズ、彦根城桜まつりを小松バス観光を利用した企画を実施した。年配者及び障害者多数のため、今回の参加者は5名のみでした。当日は曇り空で雨天を心配しましたが、現地到着時晴天で快適でした。彦根城の桜も満開で快適な気分、小松の桜と違った経験ができました。バス車内でも知らない人と親しくなり、とても良かった1日を過ごすことが出来た。今後は多数の参加ができる企画も考えなければと難しい問題です。今後ますます高齢化が進み、何をするにも金額個人負担の問題が大きくなります。

報告 豊岡 正俊

地区活動 フォトメモリー



粟津地区 グラウンドゴルフ大会

H29.6.3 片山津温泉ソサエティ 18名

地区活動の企画にあたり、どんな行事をしたら、多くの方が参加するのかわかり悩みます。今年は男女共通で楽しむことが出来るグラウンドゴルフ大会を開催した。片山津温泉ソサエティで18名の参加で32ホールの競技を行いました。初めてプレーする方もいましたが、皆で協力しながら無事に終わることができました。プレー終了後、全員で昼食を頂きながら、話に花が咲き、楽しい一日となりました。

報告 新谷 俊英



月津地区 総会

H29.2.18 加賀ゆめの湯 23名

総会は初めに昨年亡くなられた会員のご冥福を祈って黙祷。経過報告、役員の選出が承認され、その後懇親会に移り、石橋氏の乾杯発声で開宴。今回は初の女性会員2名も参加して頂き、酒を酌み交わし、会員の近況報告、昔話に盛り上がり、時間の経つのを忘れ、楽しく時間を過ごしました。なお、市長選に向けて和田市長が挨拶に見えた。

報告 高橋 政一



矢田野地区 総会

H29.3.4 加賀ゆめの湯（加賀市）25名

総会では、28年度行事報告、会計決算報告を行い、その後懇親会を行いました。同じ校下在住とはいえ日頃顔を合わすこともない人も、酒が入り緊張が解けると、同じ会社に勤めた仲間として昔を懐かしみ、楽しく語らい、平素は知ることが出来ない才能を知ることが出来、有意義な時間をすごせたのではないかと思います。

報告 藤元 政孝



符津地区 総会

H29.3.19 ホテル・大くぼ（符津町）25名

- (1) 総会 ① 28年度OB会行事報告
② 28年度入退会状況
③ 28年度会計決算報告
④ 29年度役員紹介
⑤ その他

- (2) 懇親会：昼食会を兼ね、楽しく親睦を深めました。

報告 齋藤 清一

地区活動 フォトメモリー



動橋地区 総会

H29.3.27 大江戸温泉物語 ながやま 11名

28年度地区総会と懇親会を開催した。当地区の会員は44名ですが、総会出席者は11名でした。その中で、産機事業本部を退職されている田島正一さんが海外勤務の楽しさ、難しさを語ってくれました。他の会員も現役時代の仕事を思い出し、当時を振り返って懐かしがっていました。

報告 村口 滋



矢田野地区 木場潟ウオーク

H29.7.8 木場潟 17名

熱中症の心配が必要なほどの好天に恵まれ、17名の参加でウォーキングを行いました。木場潟南園地の近くに中尊寺より株分けされたハスの花が綺麗に咲いており、ここで写真を撮影してウォーキングを開始。1周を1時間10分から20分で歩く元気なOBです。(9月号会報で報告)

報告 藤元 政孝



大聖寺地区 総会

H29.6.14 割烹「山ざき」(大聖寺) 16名

今年度の総会は本部総会が例年より1か月程遅れのため、地区総会は6月下旬となりました。

① 第40回栗津工場OB会定期総会の報告
② 記念式典
③ 28年度大聖寺地区経過報告、地区審議事項(会計収支報告、編成見直し)を行い、原案承認後新谷初次郎氏の乾杯で始まり、近況報告、不参加のため、地区総会は6月下旬となりました。会員のメッセージの確認、カラオケで盛り上がりしました。

報告 上村 純仁



那谷地区 総会

H29.1.30 もみじ食堂(那谷町) 6名

今年は昨年より1名減で6名で開催した。段々会員が少なくなり、寂しい総会でしたが、昨年のOB会活動報告の後、会計報告が行われ、懇親会に移った。近年の農産物の被害の状況や駆除などに話が弾み、盛会のうちに記念撮影して散会した。

報告 山下 豊

地区活動 フォトメモリー

寺井地区 総会

H29.3.19 「サライ」(能美市石子町) 23名

総会議案書に基づき、28年度事業報告・収支決算、29年度事業計画・予算を審議し、問題なく総会を終え懇親会で情報交換と親睦を深めました。

報告 河村 良平



寺井・湯谷地区 グラウンドゴルフ大会

H29.10.1 泉台グラウンドゴルフ場 21名

21名の出席で午前9時～11時半の2時間半、秋晴れのグリーン上でホールインワンを目指して27ホールの楽しい時間を過ごしました。成績は次の通り。

チャンピオングループ

優勝 大西 正 (末信町) スコア 49
2位 谷口 留蔵 (寺井町) スコア 53
3位 増田真喜子 (佐野町) スコア 56

レギュラーグループ

優勝 宮崎 勲 (佐野町) スコア 64
2位 伊野 儀明 (末信町) スコア 64
3位 竹田 祐康 (粟生町) スコア 66

報告 河村 良平

大聖寺地区竹林伐採ボランティア

H29.11.1 加賀市橋立町「橋立自然公園」16名

前回4月のボランティアは雨で中止となったが、今回は秋晴れで天候に恵まれた。施設管理者から、台風21号の影響で山が荒れているため対処して欲しいとの指示がありました。現地に入ると折れたり、傾いた竹が多数あり、又倒木もあったが、会員の協力で斜面や足元の悪い中、事故もなく作業出来、特に東出清一さん自前のチェーンソーが威力を発揮しました。参加者は本部役員を含めて16名。来年春筍掘りを楽しみに再会をと、記念撮影後散会しました。

報告 上村 純仁



寺井・湯谷地区 カラオケ大会

H29.10.7 「花と蝶Ⅱ」(能美市大長野町) 17名

17名の出席で、午後1時～4時の3時間カラオケで楽しい時間を過ごしました。上手な歌声に大声援でした。またデュエットも楽しみました。

報告 河村 良平



福井地区 総会

H29.3.3 あわら温泉 灰屋 9名

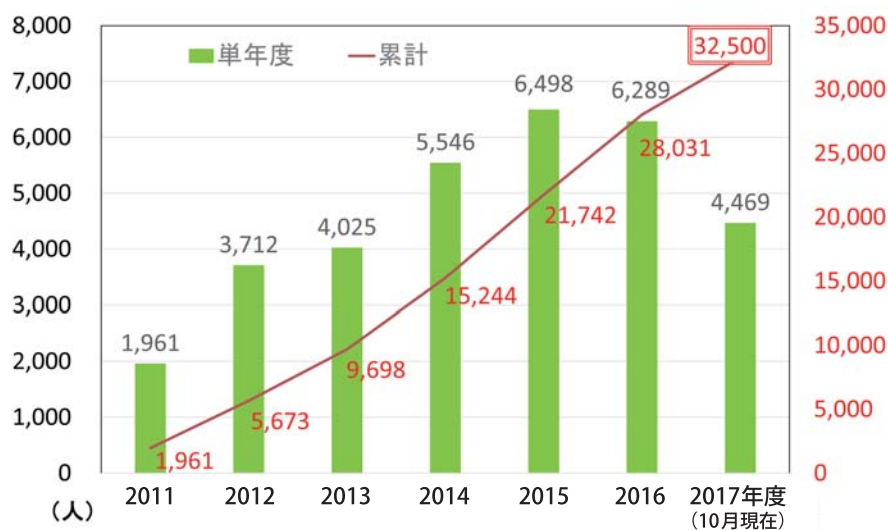
- 1、総会 (1) H28年度活動報告
(2) 会員の近況報告など
- 2、懇親会 参加者全員で旧交を温めました。

報告 谷川 栄

こまつの杜 OB ボランティア活動 2017年度 活動状況報告 (2017年1月～2017年12月)

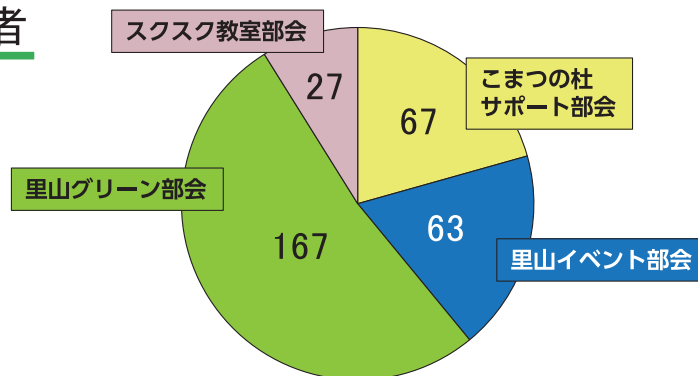
コマツ栗津工場OB会 特定非営利活動法人 みどりのこまつスクスク会

ボランティア活動の推移



ボランティア登録者

合計 324名
(2017/10 時点)



4 部会 活動

部会

1. スクスク教室部会
2. 里山イベント部会
3. 里山グリーン部会
4. こまつの杜サポート部会

部会長

中山 善博
吉田 晋
宮川 忠彦
荒木 義昭

1. スクスク教室部会 部会長：中山 善博



2017年度活実績

項目	対象	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年間計画
理科教室 わくわくコマツ塾	小学3～6年 小学5、6年			7回 15回	合計36回 (10月まで)	12回 30回
わくわく サイエンス	保育園児			3回		8回
出前教室	学童・他 (小学1～3年)			4回		10回
社会科見学	小学5年生			1回		10回
モノづくり体験スタジアム (出前)	小学4～6年		1回 7/16青山テピア			1回
カンボジア理科教室	室戸コマツ 小学校 (1～6年)		1回 7/5角S、堂道S			1回
夏休み・冬休 み支援教室			夏休み工作教室	1回 →	→	4回
コマツ館行事	幼児 ～小学生	①建機祭り	②夏休み工作	③秋祭り	10月サイエンスヒ ルズとのコラボ	3回
おしごと体験 (モノづくり)	(出前)小学3～6年			小松市主催		1回



わくわくコマツ塾



2. 里山イベント部会 部会長：吉田 晋



2017年度活動実績

	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
カブトムシ飼育チーム	5/13(土) 幼虫観察会	7/22(土) 成虫観察会 7/25-27/8/1-3/8-10 カブトムシの館が「ドワアー」		
きのこ里山観察チーム	6/3(土) 葉っぱ観察と 里山づくり 春～秋 (新)蝶の観察	7/12-15 ジャコウアゲハ 発見 9/22(金) アサギマダラ 発見	12/2(土) きのこ教室	
むかし遊びモノづくりチーム		7/28(水) よく飛ぶ紙飛行機 を作ろう 7/28(金) 組み紙 折り紙教室	12/中 門松作り	3/下 組み紙 折り紙教室
燐づくりチーム	5/12(金) サツマイモ苗植え ヒマワリ種まき	7/15(土) ヒマワリ 迷路制作 9/13(水) 芋ほり		

	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
ホテル飼育チーム	4/21(金) 幼虫陸上り 観察 6/1(木) ホテルの観察会		10/8(日) 幼虫放流 11/23(木) 予定 幼虫放流 越冬飼育準備	
米づくりチーム	5/17(水) 田植え 6/9・23・ ラヂウチ・草取り	7/7-21 7/18(火) かかし作り 9/19(火) 稲刈り	10/5(木) 脱穀 11/14-21-24 しめ縄作り 12/15(金) 予定 餅つき	12/27(水) 予定 鏡餅配布
里山イベント部会 地域との交流	4/26(水) 自主研修会	8/19(土) 本場湯 キャンドル ナイトウォーキング	10/8(日) 里山フェスティバル 10/21(土) 里まなび山あそび出展	

ホテルの飼育

げんき里山では、2014年6月に2匹発見以来、2017年は48匹を確認。
室内にて、産卵から幼虫飼育、さらに蛹から羽化までの成長過程を検証。



蝶プロジェクト



蝶プロジェクト

こまつの杜をより里山らしくするために蝶を呼ぶプロジェクトを開始

	ジャコウアゲハ	ギフチョウ	アサギマダラ
特徴	大型の蝶で雄の翅色は 光沢のある黒色	日本の固有種。	季節に応じて南北を 移動する“渡り蝶”
幼虫の食草	ウマノスズクサ	カンオイ	ガガイモ科(カモメヅル、 サクララン、キジョラン)
成虫の吸蜜	(不特定)	カタクリ(春)	フジバカマ(秋)
こまつの杜 での活動	●ウマノスズクサを移植 ●幼虫を放つ	●カタクリの宿根を移植 ●カンオイを移植	●フジバカマを移植
備考		※石川県では 準絶滅危惧種の指定	※マーキングで行動 範囲を調査

蝶プロジェクト

アサギマダラ:
春に南から北上、秋に南下。
石川県では、白山ろくで多く、確認されて
いて、全国に愛好家も多い。

「こまつの杜」でも
捕獲に成功!
[捕獲したOB吉田さん]
(北國新聞9月22日)



3. 里山グリーン部会 部会長：宮川 忠彦



子供たちに人気の和田さん
NHK「プロフェッショナル」に出演



2017年度活動実績：花育

	2016年 3月	4～6月	7月～9月	10月～12月	2017年 1月～3月
こまつの杜に おける活動	3/上旬～下旬 花の種類選定 花の種類購入 必要商品の買い出し 商品購入 花壇デザイン	4/12 種まき	5/18 種まき	6/15 種まき	12/下旬 こまつの杜にて お世話になった方 へプレゼント
里山グリーン部会 花壇づくり 花育チーム 17G(女性1グループ) 男性有志		4/12 種まき	5/18 種まき	6/15 種まき	1/上旬 地域の方へ 花壇プレゼント
コマツOBと 幼稚園との 花育活動	3/9&10 コマツと園との打ち合せ お楽しみ会の運営説明 年間計画決定	4/12 種まき	5/18 種まき	6/15 種まき	3/上旬 フラワーアレンジメント
こばと第2こども園 白旗幼稚園		4/12 種まき	5/18 種まき	6/15 種まき	

2017年度活動実績

体制	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
里山の清掃	1G～16G (男性中心 16グループ)	足生広場と道路清掃 里山の草むしり 外来種の除去、池の藻除去 堆肥作り&処理 3月14日～11月17日 毎週火曜日・金曜日 8:30～10:30 トータル64回(15回/人) (4G/回…56回(14回/人) (2G/回…8回(1回/人)	7月～8月 サマータイム導入(希望者:24名) 火曜日・金曜日 7:00～9:00 トータル4回 → 4回	10月現在 <登録人数> 男 141名 女 26名 計 167名
花壇づくり 花育チーム	17G (女性1グループ) + 男性有志	特認認定作業 3回/年 5/19(金) 8/4(金) 10/13(金)		

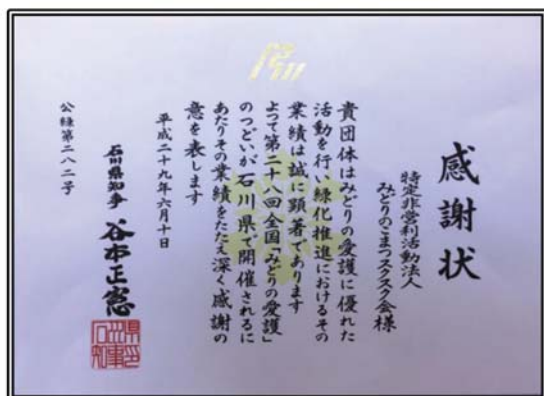
2017年度活動実績は別紙で報告

石川県都市緑化功労者知事賞を受賞

2017年6月10日(土)、金沢の本多の森ホールで開催された、第28回全国「みどりの愛護」のつどいにおいて、NPO法人みどりのこまつスクス会のこまつの杜における緑化活動が認められ、石川県都市緑化功労者知事表彰を受けました。

皇太子様をお迎えして、約1000名が出席。NPOからは、里山グリーン部会の宮川部会長と道内事務局長が招待され出席し、国土交通大臣表彰に次いで、石川県都市緑化功労者知事表彰が行われました。

※全国「みどりの愛護」のつどいは、国民の祝日である「みどりの日」の制定を機に、緑を守り育てる国民運動を積極的に展開することを目的に1990年から開催されている。



4. こまつの杜サポート部会 部会長：荒木 義昭



人形劇のリニューアル

人形劇新テーマ制作日程

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
制作											
練習											
実施											2回

題材『ブルドーザーのブルブル』

ある事件で大活躍！

人形制作風景

音声録音風景

人形完成品



ボランティアガイド

OB・OGがこまつの杜を案内する

練習：4月～6月

参加者：20名

開催：7月22日から
第2・第4土曜日の月2回で午前・午後

内容：コマツの歴史を中心に約20分

コース：コマツを支えた建機たち → 竹内明太郎像
→ コマツ館建屋 → 建機のあゆみ



【練習の様子】

《現在》
10回、96人

ボランティアガイド

【お客様案内の様子】



栗津工場開放デーでの活動紹介

8月6日(日)の栗津工場開放デーで、こまつの杜での活動を紹介。

場所：新食堂2階

(1)理科・ものづくり教室の開催

①空気砲



②新聞ドーム



(2)里山自然教室の紹介



〔里山自然教室〕

里山の木々、草花、小川などの自然観察を通し子供たちが自然に親しみ、楽しく遊び学ぶ



〔花育活動〕

小松市内の園児と里山グリーン部会OB、OGとの協同活動



花と蝶のクラブ

蓮代寺地区 吉田 晋



「こまつの杜へアサギマダラが来たよ」
クラブ員の大川さんが興奮してO Bルームへ
飛び込んできたのが平成29年9月21日のこ
とでした。まさか、早くも来たかとの思いで
9月22日の朝、網を持ちまちかまえている
と「来た」興奮してうまく網に入らない、失
敗して逃げてしまった。心を静めて、花に止
まって蜜を吸い出したら網にかけよう。



こまつの杜でのアサギ
マダラ補蝶第一号

もうこないのかあ、心を静めて待つてい
ると反対方向からフジバカマの花に止まって
蜜を吸い出した。「それ」と網を横からかけ
ると補蝶成功。クラブ員の福田さんに「小松
市922 わくわく01」とマーキングして
もらい、道内館長に記念すべきアサギマダラ、
こまつの杜飛来第一号として放蝶していただ
きました。秋の日本本土から西南諸島、台湾
へと渡っていく渡り蝶です。

それでは「花と蝶のクラブ」が発足した
経緯についてお話したいと思います。ある
日ホテルの飼育を教わっている中村顧問より、
そろそろ、ホテル飼育もめどがついて来たの
で、今度は蝶々をやって見ないかと持ち掛け
られていたのですが、まだまだですとおこと
わりしていましたが、はつきり言ってまだまだ
余裕がなかっただけでした。中村さんが個人
的にアサギマダラを観察している白山市尾口
村のミントレイノへは時々遊びに行っていま
したが、その時は、世の中にはこんなことに
一生懸命になる人がいるんだなと思うだけ
でした。そんな時、栄食堂の長野社長さんか
ら(株)コマツエンジの中庭にレッドリスト(絶
滅危惧種)のウマノスズクサがあるよ、こま
つの杜へ移植してどうかと言うのを思い出
しました。又、カタクリをこまつの杜で育て
ないか、イノシシ被害がひどいと言う話も市
民の方から入ってきました。レッドリストの
蝶とレッドリストの草花の結びつきが非常に
たかいと解り、レッドリストの草花をこまつ
の杜で育てよう。を目的にクラブ員を募集し

たら、25名の方が興味を持たれ、半数が女
性の方といううれしい結果となりました。
クラブ長安土左膳、副クラブ長福井ひろ
みさんという布陣で3月8日コマツ館エント
ランスホールで「花と蝶のクラブ」が発足し
た瞬間でした。対象とした花と蝶も次の三点
にしばりました。顧問は地域の専門家になっ
ていただき、クラブ活動は進んでいます。



勉強・発足会

蝶名	草花名	顧問名
一 アサギマダラ	フジバカマ	中村 明男 (白山市)
二 ジャコウアゲハ	ウマノスズクサ	中江 稔 (小松市)
三 ギフチョウ (平成30年度 飼育開始予定)	カタクリ カンアオイ	谷川恵二郎 (小松市)

次に蝶と草花の不思議について話しましょう。アサギマダラ蝶は飛んでいるうちにフジバカマの花を見つけ、蜜を吸いにおりて来ます。蜜には毒性がありますが、野鳥が蜜を食べた蝶をつかまえて食べてもはき出してしまいうのです。アサギマダラが野鳥から身を守る太古からの遺伝だと言われています。もちろん海を渡る蝶としても有名です。フジバカマの草花も中村先生より株分けしていただき、こまつの杜にあります。次に、ジャコウアゲハ蝶は石川県では小松市にしかいません。ウマノスズクサの有る所にしか卵を産まないし、これしか食べません。コマツエンジニアリング(株)跡地より移植してこまつの杜にあります。ウマノスズクサにも毒性があります。花と蝶両方共にこまつの杜で元気に育って来ています。次、ギフチョウは日本固有種でカタクリ



ウマノスズクサ移植作業

の蜜を好んで吸うが、卵はカンアオイにしか産まないし、幼虫はそれしか食べない。カタクリはこまつの里山より移植、カンアオイは日本花の会より移植、共に大切にこまつの杜で育成しています。来年はギフチョウを育てる予定です。



ジャコウアゲハの幼虫を
養うウマノスズクサ



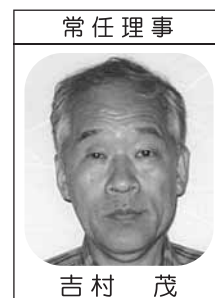
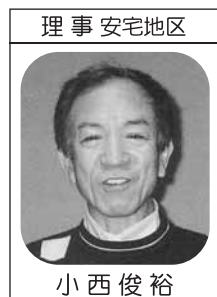
満開に咲き誇り蝶を
待つフジバカマ



ジャコウアゲハ蝶(メス)

河川開発、農薬汚染、土地開発、踏みつけ、道路工事等少なくなっているレッドリストの草花、蝶を少しでもこまつの杜で守ろうと取り組んだメンバー
 一年目 環境整備
 二年目 蝶を呼ぶ、子供達に教える
 三年目 定着
 を目指して、楽しく楽しく毎日奮闘しています。知れば知るほど不思議な世界に入っていくのを感じています。来期は子供達に花と蝶を教える教室を春と秋に開こうと計画しています。ぜひ里山イベント部会に参加して一緒に未来の子供達を育てる教室、イベントに挑戦しようではありませんか、皆さんの参加をお待ちしています。

平成29年度 OB会役員の紹介



大聖寺地区理事 上村純仁が兼務
那谷地区理事 山下 豊が兼務

平成29年度 OB会役員の紹介

理 事 湯谷地区



渡辺 徹

理 事 寺井地区



河村良平

理 事 根上地区



南 修二

理 事 美川川北地区



平野松雄

理 事 松任地区



野田正記

理 事 犬丸地区



今西和夫

理 事 能美地区



竹内吉昭

理 事 東陵地区



林 國夫

理 事 中海地区



中田俊雄

理 事 国府地区



本村 孝

理 事 蓮代寺地区



谷舗一矢

理 事 苗代地区



新谷信秀

理 事 松東地区



小倉政信

理 事 上小松地区



中村正文

理 事 八幡地区



河南明夫

理 事 今江地区



高橋 他二郎

理 事 向本折地区



飴山善治

理 事 芦城地区



豊岡外輝男

理 事 稚松地区



釜本隆司

理 事 牧 地区



上西恒一

理 事 山代山中地区



畑 正廣

理 事 矢田野地区



藤元政孝

理 事 粟津地区



新谷俊英

理 事 符津地区



益田 孝

理 事 月津地区



高橋政一

婦人部副部長



谷口光恵

婦人部副部長



谷口礼子

婦人部部長



福井ひろみ

理 事 福井地区



谷川 栄

理 事 動橋地区



村口 滋

百姓の持ちたる国と密接な富 樫家・後半期の守護について

向本折地区 小枝俊弘



●一、「富樫一族」と一向一揆の「百姓の持ちたる国」とは期間的には一体どんな関係があったのでしょうか。この二つは日本の中世・加賀国にとって実は歴史的には馴染みのものであります。しかし即座に両者の関係が思い浮かばないのが一市民の実感ではないでしょうか、しかし熟考すれば加賀国の古代・中世約千年間の約五百年間支配をし続けた歴代の加賀介・富樫介と守護富樫氏の終末からの約百年間と「百姓の持ちたる国」の百余年間の殆んどは重なっていて敵、又或る時は味方との関係でありました。即ち加賀国の立国（823年）から約二百四十年後の1063年から1574年までの約五百年間は加賀国の支配者の「朝廷の加賀介」や「幕府の富樫介」という在官称号や「守護（職）富樫」として源平末期、鎌倉時代及び南北朝、室町・戦国時代の時々の幕府や朝廷から加賀国は富樫氏の領国と認められてきました。

●二、何故、石川県下では前田家二百六十年間

の歴史のみしか語られないのか？ 富樫家は約五百年間、百姓の持ちたる国は約百年間、そして前田家は約二百六十年間の歴史なのに、前田家の歴史のみが何故にもてはやされるのか、富樫家の祖・富樫家国（いえくに）が加賀介・富樫介として源平末期の1063年に就任し、鎌倉初期（1185年）の守護・富樫泰家（やすいえ）と富樫高家（たかいえ）が鎌倉幕府滅亡（1333年）後の初代守護就任の1335年から南北朝、室町・戦国期の応仁の乱（1467―1477年）の加南版・文明の一揆（1474年）での富樫政親（まさちか、一向一揆側）、富樫幸千代（こうちよ、本願寺高田派）を経て、その十一年後の加賀一向一揆の長享の一揆（1488年）で実質上、富樫氏が滅び、名目の守護・泰俊（やすとし）の討死の1574年までの約五百年間（一時期、守護・斯波氏、守護・赤松氏による富樫氏の約四十年間の空白はあるが）を加賀国を支配していたのであり、加賀藩の前田百万石時代の約二百六十年間と比べれば約二倍の期間の差があるのにも拘わらず、我が石川県民や小松市民の郷土の歴史観や伝統・文化観は前田利家や利常の前田家一色であり、前時代の歴史・文化の継承つまり前田家百万石以前の歴史（政治・経済・宗教・産業・美術を含む芸術一般）即ち富樫一族の歴史は富樫氏の故郷・野々市町史に於いてのみ語られるだけで県下では殆んど無視され続けている。そこで本稿では富樫氏の権威・権力の発生源と安宅の関守・富樫泰家と那谷城の戦の富樫高家を中心に、そして、もう一つの主役で

ある小松・今江の御幸塚城に四十二年間居住し、富樫家の中興のキーマンであり存在感を示した富樫泰高（やすたか、1422―1505年）と文明一揆（1474年）の蓮台寺城の戦での富樫政親、幸千代である。そして末期の守護達の富樫植泰（たねやす）・泰俊親子、富樫貞晴（さだはる）も述べてみよう。

●三、富樫氏祖の藤原利仁（としひと）から歴代の富樫氏達について

●三の一、富樫氏祖の藤原利仁とは 富樫一族は右大臣・藤原不比等（ふひと）の次男の藤原房前を祖とする家系（藤原北家）の中の魚名・利仁ラインの流れの中の藤原利仁（としひと、父は民部卿の藤原時長）が富樫家・林家の始祖（利仁流）である。利仁は九百十五年、北辺（陸奥国、出羽国）の防衛を担当する鎮守府將軍となり、従四位下であったとされている。藤原利仁の次男の藤原叙用（のぶもち）が斎宮頭となり斎藤氏の祖となる。藤原叙用の孫の藤原忠頼が加賀介（加賀の国司の次官）となり加賀斎藤氏の祖であり、藤原忠頼の息子の藤原吉宗が弘岡斎藤氏の祖となり、藤原吉宗の孫の藤原貞宗が加賀林氏の祖であり、同じく藤原吉宗の孫の藤原家国が富樫氏の祖となっている。因みに藤原利仁は今昔物語や芥川龍之介の「芋粥」の主人公であるし、多太神社の祀で有名な斎藤別当実盛（さねもり）は藤原利仁の流れを汲む越前斎藤氏の斎藤実直の子である。

●三の二、富樫氏祖から歴代富樫氏達について（源平末期・鎌倉期の守護） 1家国―2信家―3家通―4家経―5家直―6泰家―7泰春―8家尚―9泰明

富樫氏の祖は藤原家国イコール富樫家国（野々市文化会館に家国像がある）が1063年に国府を野々市に移して、富樫信家（のぶい）え、富樫家通（い）えみち）、富樫家経（い）えつね）、家直（い）えなお）と続く。話変わるが小松市・鶴川町の安元事件（湧泉寺事件）（安元二年、1176年）の加賀守国司・近藤師高や目代（国司の代理）・近藤師経と白山中宮との争いや奈良時代いや正確には大宝律令（701年）以来の官位である国司が源平時代の末期でも存在し、それから十年足らずの1185年には頼朝政権下での守護（御家人）・富樫氏が登場していて、安宅の関守の「仁」で名高い富樫氏六代目の富樫左衛門尉（さえもんじよ）泰家である。加賀の十二世紀末は白山信仰勢力、後白河法皇から任命された国司勢力や頼朝から任命された守護勢力等が入り乱れて複数の権力が分散して存在していた。

●四、1183―87年の安宅と富樫泰家について 前述の富樫氏のルーツから源平末期の富樫泰家が登場する頃の詳細を語れば「源頼朝（よりとも）が伊豆で挙兵した治承四年（1180年）と同年に木曾義仲（よしなか）は信濃で兵を挙げていると述べられる一方、寿永二年四月（1183年）に安宅（第一次安宅合戦）の渡しの源平合戦で軍勢十万の平家・平維盛が勝利したが、北陸道（所謂・木曾街道）から進軍して上京する際に、加賀国の豪族・富樫泰家、林光明らは、越前や越中の豪族等と相談して木曾義仲の味方になったので、北陸はたちまち源氏の勢力が強くなっている、同じく寿永二

年五月（1183年）軍勢五万の木曾義仲は倶利伽羅峠で平家軍を破り、同じく寿永二年六月（1183年）には再び安宅（第二次安宅合戦）で源平合戦で今度は源氏が勝利し、付近の篠原合戦で平家方の武将・斎藤別当実盛が討死して、その実盛の兜が多太神社に木曾義仲が奉納している。先述の1185年に富樫泰家が加賀の守護（安宅の関守）に就任している。そして、文治三年（1187年）には義経一行、安宅の関を通過している事から富樫泰家の名前が勧進帳として後世、有名になっていて、明治の歌人・与謝野晶子は安宅・住吉神社境内の石碑に「松たてる安宅の砂丘その中に清きは文治三年の関」と短歌を残しているが、寿永二年（1183年）の安宅合戦の戦場跡を石碑等で平成時代に残して置きたい。

●四の一、「仁」の心と富樫泰家について

畏れ多くも少なくとも幕末から平成に至る天皇陛下及び宮家の人々の諱（いみな）実名）はすべて昭和天皇・裕仁（ひろひと）、今上天皇・明仁（あきひと）のごとく「仁」がつくのである。「仁」は「ひと」であり、古来より、「仁」とは特に相手の立場を重んじる心的態度で儒教の根本徳目とされる。単語の「仁愛」は（やさしい心）、「仁慈」は（いつくしみの心）は仁そのものです。富樫の「仁」とは凄じ徳目である。一市民にとって謡曲「安宅」や歌舞伎「勧進帳」から弁慶と富樫のやり取りを連想し、富樫イコール富樫左衛門尉泰家（やすいえ）と短絡する。そして小松市歌の「金剛杖に涙して、義経こらせし赤誠（まごころ）に薫る安宅の関

有りて・・」から「富樫の仁」の心が偲ばれます。

●四の二、左衛門尉という官位について

富樫の「左衛門尉（さえもんじよう）」とは律令制下の官職で左衛門府の判官であり、六位相当で、軍事・警備・公安を司るとされているから源平末期下で頼朝政権前のものであるが、他方、実質頼朝政権が1185年（文治の勅許）に守護（職）設置していて、同年の1185年に泰家が加賀の守護（御家人で統率と警察の業務）就任の説もあるが、鎌倉幕府正式成立イコール頼朝・征夷大將軍に任官した年が1192年であるから、この説も頷ける。だから富樫左衛門尉泰家であったり、加賀国守護・富樫泰家であっても矛盾はないが、最近、郷土史家・清水郁夫氏に拠れば富樫泰家が京都に常住する洛中の警衛役・簀屋守護人（かがりやしゅごじん、御家人）であった事を示す論文（加南地方史研究会誌55号「安宅の関の関守は富樫泰家か」平成20年3月）の引用史料・大阪四天王寺旧蔵「如意宝珠御修法日記」紙背文書「関東御教書案」の中で発見されて、それに拠れば正応三年（1290）で約百年間の開きがあるので義経一行が文治三年（1187）安宅の関の通過の際の関守は富樫左衛門尉泰家と一致せずと主張されている。加賀の隣国の越前守護代・守護の朝倉氏一族は数代に亘って幼名から成人にいたる改名を含めると同姓・同名の人物が多数いる事から同姓同名の富樫泰家が四世代を超えて存在したと仮定すれば、どうなるのか興味や疑問は尽きない。因みに南北朝の

楠正成も左衛門尉であるし、同じく前述の新田義貞や大阪の陣の真田幸村は共に一級上の左衛門佐（さえもんのすけ）である。次に富樫泰春（やすはる）、富樫家尚（いえなお）、富樫泰明（やすあき）と時代は下り室町幕府の加賀国・初代守護職が登場する。

●五、室町幕府下の加賀国・初代守護・富樫高家と富樫泰高以前の守護達 1333年に鎌倉幕府が滅ぼされ1334年に建武の新政（後醍醐天皇）が行われるが、二年後の1336年に足利尊氏が室町幕府を正式に興すが、その一年前の1335年の富樫高家（生没年不詳）の守護職初代・就任は実質・足利尊氏を助けての勲功によるものであった。

（南北朝、室町・戦国期の守護）

1 高家―2 氏春―3 昌家―4 満春―5 満成―6 持晴―7 教家―8 泰高―9 成春―10 泰高―11 成春―12 政親―13 幸千代―14 政親―15 泰高―16 植泰―17 晴貞―18 泰俊（太字は再任）

●五の一、富樫高家の古文書等 太平記の卷十八、卷二十の富樫高家部分の解説（抜粋）に拠れば 延元元年（1336年）新田義貞は越前に赴いた。金剣宮・白山本宮の衆徒は金崎城（現敦賀市）に拠る新田勢に与力せんと、富樫高家の籠る那谷城を攻落そうと企てた。延元三年（1338年）七月、越後の大井田氏経は二万余の軍勢で新田義貞に応じて越前に向かう途上、阿多賀（安宅）・篠原辺りを行軍した。富樫高家（富樫介）はこれを聞いて、五百騎の勢力でもって安宅・篠原の辺りに新田義貞の越後勢と出会った。しかしながら高家勢は少数であ

った為、その内の二百騎を討たれて那谷城へ引き籠った。因みに新田義貞とは鎌倉（北条氏）攻めの際、近隣の海岸・稲村ヶ崎で太刀を海に投じて必勝を祈願した故事で有名な南朝の名将である。那谷寺HPの年表に拠れば1338年、北朝に味方した加賀守富樫高家、那谷寺、那谷村民たちが、南朝の大軍と決死で戦い、那谷城、那谷寺が焼け落ちる。

●五の二、富樫泰高以前の守護達 以後、二代目富樫氏春（うじはる、生没年不詳）、三代目富樫昌家（まさいえ、生年不詳―1387年）、四代目富樫満春（みつはる、生年不詳―1427年）、五代目富樫満成（みつなり、生年不詳―1419年）、六代目富樫持春（もちはる、1413―1433年）、七代目富樫教家（のりいえ、生没年不詳）、九代目・十一代目富樫成春（なりはる、生年不詳―1462年）と続き、次なる「百姓の持ちたる国」に関連して六人の代表的な富樫姓の守護が出てくるのであるが即ち、富樫泰高（1422―1505年、在位通算三十八年間）、富樫政親（1455―1488年、在位通算十五年間）、富樫幸千代（1460―没年不詳、在位通算六年間）の富樫政権の後期の三人と富樫政権末期の富樫植泰（1474―1535年在位通算二十八年間）、富樫晴貞（生年不詳―1570年在位通算三十五年間）富樫泰俊（生年不詳―1574年在位通算一年間）、の三人を加えて六人は「百姓の持ちたる国」約百年間の加賀一向一揆に強く関わっていることが特徴である。次に「百姓の持ちたる国」に大きく影響を与えた六人の守護達を

次に説明する。

●六、富樫政親・幸千代の兄弟（泰高は彼等の大叔父）守護について

●六の一、「応仁の乱」下の室町幕府と「文明の一揆」の富樫政親・幸千代兄弟について 現在の小松市には蓮代寺という地区があり、古代・平安朝の頃には中宮八院の蓮華寺が栄え、近世の江戸後期（一七五〇年頃）では復興・九谷焼の一派であった蓮代寺窯（焼）のあった由緒ある所であると同時に、ここは今から約五百三十五年前の加賀一向一揆の最初の有名な戦の「文明の一揆（一四七四年）」の古戦場の地でもある。「文明の一揆」は「応仁の乱（一四六七―一四七七）」の代理戦争であり、且つその一部であるとすると、「文明の一揆」を語る前に、先ず「応仁の乱」の頃の室町幕府の仕組みを述べてみる。幕府の將軍の下に管領（鎌倉幕府の執権相当）がいて、その管領の下の中央機構に侍所（軍事・警察）、政所（幕府財政）、門注所（記録・保管）があり、地方機構に守護、鎌倉府（関東支配）があつて、今流に言えば將軍は大統領で、管領は首相で、侍所は防衛大臣で、守護は県知事相当である。主として歴代管領は斯波、細川、畠山氏の三管領から選ばれ、歴代侍所の長官は山名、赤松、一色、京極の四氏（四職）から選ばれていた。京の都で応仁の乱が始まり、京の都はもちろん、全国各地でも各々東軍（管領・細川勝元）と西軍（侍所・山名宗全）とに別れ代理戦争が起っていた。その例に洩れず、応仁の乱頃の加賀国には二人の守護制の「半国・守護」といって南加賀は富樫政親、北

加賀は侍所長官で四職の赤松政則で後に富樫幸千代が継いで居た加賀国では富樫家第九、十一代目富樫成春の長兄・第十二、十四代目富樫政親（東軍）と弟・第十三代目富樫幸千代（西軍）が加賀国の領地を賭けて家督争いを続け、弟・富樫幸千代は浄土真宗・専修寺派・高田門徒の支援を受けて、兄・富樫政親は浄土真宗・本願寺派の一向一揆の土豪・門徒の支援を受けて、この蓮台寺地区の弟・富樫幸千代の居城の蓮台寺城で「文明の一揆」の戦を繰り広げていたが蓮台寺城は陥落し、兄・富樫政親は勝利し十四代目の守護になったが、一揆の本願寺側門徒は二千名の死者が出た程の激戦であった。

●六の二、富樫幸千代から始まる虚空蔵山城の一向一揆の戦いについて 現在の能美市辰口地区の虚空蔵山城跡は加賀国の富樫泰家の安宅の関守時代から遥か三百年も下つての戦国時代にも富樫一族が加賀国には存在したという証です。因みに虚空蔵山城跡は加賀産業道路付近の「石川動物園」の後方に位置し、富樫幸千代は虚空蔵山城を築城した城主であったが、文明の一揆に敗れて、富樫幸千代は京の都へ帰ったとも越中へ逃げたとも、言われているが、一揆軍に破れて虚空蔵山城は陥落。因みに小松市内・京町の行松旭松堂は幸千代の末裔と言われている（行松家文書）

●六の三、高尾城の長享の一揆での富樫政親について 応仁の乱の終結の頃は、富樫政親は將軍・足利義尚の熱き信任を得ていて、近江の六角の戦で義尚・支援で参戦して、その為の軍費調達で加賀の農民に重い徴税を行い、その資

金で六角の戦で近江に赴き足利義尚を支援しています。加賀の一向一揆の不穏の動きで、義尚の許しを得て、帰郷しますが、後はご存知の長享の一揆（1488年）の高尾城で富樫政親は戦死（自害）します。そして事実上の支配は富樫氏から加賀一向一揆の本願寺領国「百姓の持ちたる国」の時代にはいる事になります。

●七、富樫泰高（1422—1505年）の守護時代と隠居時代について 一四四五—一四八八年の四十三年間に富樫泰高は現在の小松市立・今江小の校庭を挟んでの裏山に御幸塚城（今江城）を築きて居城していたが、富樫泰高の時代は三つに大別され、即ち今江の加賀守護（八代目、十代目）の時代と隠居の時代と野々市の富樫居館の十五代目の守護の時代がそれぞれである。彼は通算して加賀の守護を三十八年間続けたの富樫家・守護の最長レコードホルダーで且つ歴代守護時代（一三三五—一五七四年）の中葉から後半にかけての富樫家のキーマンの守護であった。

●七の一、八代目守護時代（在位1441—147年）とその後の兄弟争乱の富樫泰高 富樫家と泰高は五代目・満春の共に嫡男でない兄弟達が両流相論という家督争いを次の様にしていった。一四四一年六月富樫教家が將軍・足利義教の逆鱗にふれ、守護の座を追われ蟄居。教家の幼弟・慶千代が醍醐寺から還俗して、富樫泰高（十九歳頃か）となり八代目守護を継承する。足利將軍・義教が赤松満祐に殺され一四四二年に、畠山持国が管領に就任して教家の嫡子・成春を守護に任命。一四四五年に泰高を支持する

細川勝元が管領に就任して、泰高を支援した。

●七の二、十代目守護時代（在位1447—64年）の富樫泰高 一四四七年に泥沼化していた兄弟争いの「両流相論」（別名「嘉吉の乱」ともいう）に、双方が矛を収め、北半国守護に教家の嫡男・成春が、南半国守護に泰高が任命される。一四五八年、四職の赤松氏が北半国守護に任命されると、成春は解任され富樫家としては対立が解消して連携が生まれた。一四六〇年に將軍より赦免され、成春は守護職に復帰したが一四六二年に成春が死去して泰高が家督を継承するが、一四六四年に泰高、幕府より正式に隠居が許可される。

●七の三、今江の隠居時代（1464—88年）の富樫泰高 当時越前の吉崎に近江の堅田を追われた浄土真宗八代法主・蓮如が来ていて吉崎御坊（一四七一年創建）を開基し、布教活動を盛んにしていた。泰高は一四四五年に築城した御幸塚城（今江城）に蓮如を一四七一年に招き逗留させた。それが縁で中世・今江の中心であった蓮如所縁の願勝寺の前身の道場の設立に支援した事が、後の明治時代になって、願勝寺の寺子屋塾から必下書院に発展して、俊英を多く輩出した。そして自らも帰依して真宗門徒になり、今江も浄土真宗が盛んになっていった。そもそも富樫泰高は前述の「文明の一揆（一四七四年）」で互いに戦った政親・幸千代兄弟の大叔父であり富樫家の分家の身であったが、何時の日か、金沢付近にある野々市の居館（高尾城）での加賀守護職の再々登板を夢見ていた。つまり泰高は政親・幸千代兄弟の父親である富

榎成春は、その又父親の富樫教家の長男であり、泰高は次男であった。満春の次男が富樫教家であり、泰高は三男で分家であった。野々市の高尾（城）居館に富樫本家が有り、小松の御幸城（今江城）に富樫分家が有り、それ以外にも富樫一族の分家は姓名を変えて南加賀地区に一族郎党が沢山、存在していました。例えば小松市は板津、白江、加賀市は額田、白山市は倉光、松任、横江、安田、宮永、金沢市は山川、大桑、広坂、広岡、近岡、横江、泉等の氏の地名が有ります。是等を結ぶ富樫氏分家の所縁地名ルート駅伝でもすれば面白いのだが。

●七の四、野々市の富樫居館の十五代目守護時代（在位1488―1503年）の富樫泰高軍事費の調達で重い徴税をおこなった富樫政親に対して、富樫泰高が真宗門徒達から推されて一揆軍の総大将となつて、一四八八年の「長享の一揆」で二十万の大軍で野々市・高尾城を攻め囲み、陥落させて富樫政親を自害させた結果、富樫泰高は名目的な加賀国・守護となり「百姓の持ちたる国」の実質は農民自治の共和国となりました。その結果、富樫泰高は四十三年間の住み慣れた御幸塚城を後にして野々市の富樫本家の居館に住まいし以後、名目的な守護の地位を子孫達に継いで行きました。泰高が何故に一揆側の総大将を引き受けた理由は、例え実質支配が出来ない名目支配であっても当時、四百年続いていた守護富樫家を絶やさない想いと同時に、富樫分家に甘んじた泰高家系の守護職の奪還・存続と一揆側の大義名分及び室町幕府に対する思惑が一致した所産であろう。

●八、その他富樫家・後半期の守護について

●八の一、享祿の錯乱と十六代目・富樫植泰・十八代目・富樫泰俊親子の守護 富樫家の守護は十六代目・富樫植泰（1474―1535年）は足利將軍義植の「植」の一字を貰い信任が厚かったが、享祿四年（1531年）には一向一揆が超勝寺・本覚寺（超本両寺体制の大一揆）と加州三ヶ寺（二俣若松・本泉寺、波佐谷・松岡寺、山田・光教寺の小一揆）に分かれて享祿の錯乱が起きて、加州三ヶ寺は守護・富樫氏と協調路線をとっていた為、植泰・泰俊も小一揆側として参戦したが、敗れて親子共々、牢人となり、その後越前に逃亡をしたが、1535年、失意の中に植泰は亡くなった。十八代目守護・泰俊（生年不詳―1574年）は越前に逃れ溝江氏の客人となっていたが、1574年、溝江氏が越前・河北一揆に攻め込まれ、討死にした。

●八の二、十七代目・富樫晴貞（植泰の次男で一向一揆の敵対者） 富樫晴貞（生年不詳―1570年）は長享の一揆（1488年）以来からの一向一揆側の協調体制を1570年に破棄して織田信長に呼応して挙兵したが、本願寺・一向一揆の兵に包囲され大乘寺へ逃げるが途中自害した。

●九、富樫家守護達と馬図の趣味について 戦乱の世に歴代の富樫氏の多くは個人的に馬図の趣味があり心慰めていた。泰高又は政親のいづれかが、雪舟らと交流があり、自筆の馬図や甥の政親の「群馬図」、孫の守護・晴貞も血筋を引いてか彼等の秀でた「馬図」が複数が県下に現存する。

●十、あとがき 加賀市・篠原の実盛塚、首洗い池を含む第一次、第二次安宅合戦の史跡は安宅に皆無で、石碑も何れも整備されていないのはフェアな歴史に対する態度ではない。新修小松市史資料編「小松町と安宅町」でも安宅町史でもこれらの安宅合戦が記載されていないのは全く解せない。この合戦で幾千名の郷土の祖先が犠牲になっているが供養塔の建設や供養祭や偲ぶ会等聞いたことがない。私も恥ずかしながら還暦になるまでは安宅の関守の富樫泰家以外の源平や南北朝の「安宅合戦」「百姓の持ちたる国」に関係するこれら六氏の守護・富樫氏の名前すら知らなかった。いかに中高時代の歴史教育の大切さが身に浸み新書版・応仁の乱を読む此頃である。（完）

●参考文献 小松市史第一巻沿革篇（川良雄編）、野々市町史通史編、図説・野々市町の歴史、金沢市史通史編一「原始古代中世」、官知論、加南地方研究会誌第一号・面甚左衛門著「虚空蔵山と一向一揆」、加南地方研究会誌第五号・清水郁夫著「安宅の関守は富樫泰家か」、ウィーキーペディア（藤原氏、藤原利仁、藤原叙用、斉藤氏、斉藤実盛、富樫氏、富樫泰家・昌家・満春・満成、八介、鎌倉幕府）、太平記（新修・小松市史資料編四・国府と荘園）

嗚呼、道下幸助さん逝く(三)

南部撤退

辰口地区 永山純夫



辰口町岩内在住の道下幸助さん(大正12年生)の沖繩戦の続きです。

南風原(はえばる)陸軍野戦病院の地下壕の中を出入りしている殺気だった衛生兵がどなった。「貴様か!!今入ってきたのは!この混雑している中に入ってきてどうするんだ!早く出ていけ!!何しに入ってきた!」「はい!本部の方で軍曹の方から、あの壕へ行けと言われて来ました」「馬鹿たれ!!誰彼が言おうとこんな所へ入ってきて、其処は出入りの邪魔になる。早く出て行け!」と足蹴にされた。外へ出ると言われても、もう昼間になっている。もうへたばって身動き出来なかった——女子の学徒隊の方が、見るに忍びなくて、「兵隊さん、痛い——」「痛いところを根元から千切って欲しいくらいや」そこは女の優しさ、直ぐに奥に在る治療室の軍医に知らせたものか、軍医が何人もいるが交替で重傷兵の治療で手が廻らず、別の衛生兵二人と女子の学徒隊の

方が一人来て「兵隊!貴様は何処をやられた。此処だけか。痛い。痛いだろう。聞くまでもなからう。分った。よし!治療は此処でやる。軍医は来れん。俺達三人でやる。痛い。我慢せい」——そしてもう一人の衛生兵を呼んで来て、道下さんを地面に寝かせて、二人で身動き出来ぬ様に押さえつけて、別の衛生兵が道下さんの右腕の三角巾を取り外して治療を始めたが、痛いの何の、気が遠くなった。暴れようにも、二人の頑丈な衛生兵にがっちり押さえつけられて——悲鳴をあげた。

片方の学徒隊は次々と消毒液を渡す。全く麻酔一本使わぬ当時の戦場での乱暴な荒治療が——時間で、どの位掛ったか——三角巾とガーゼと繃帯で強く強く巻かれて完全に固定されて、或程度落ち着いて来たら痛みも柔らいで来た。痛みはある事はあるが、治療前の痛さに比べるとずっと易しくなってきた。然し、此処に長く居すわれれば人の出入りの邪魔になるから気を揉んでいると、其処へくだんの軍曹が見廻りに来たのでお礼を述べてから「自分に言った通り、原隊へ帰ります」と報告すると——「兵隊!お前、原隊(軽迫撃砲)玉一二三九八部隊へ帰ると言うが、原隊は今、何処に在るのか知っているのか、今の戦闘は物凄く峻烈になっておって、お前の原隊は何処に居るのか誰も分からない」「何時までも此処に在ると壕の出入りの邪魔になるから、それに治療さえ受けたら原隊復帰すると言った手前勝手もありますから」——「もう少し待つとれ」何処其処に手が廻らなくて放置した

ままの遺体が二、三人あるから、壕の外へ運び切れなくて、彼方に此方にも遺体が寝かせてあるから、それ等の遺体の何れかを壕外へ運び出して後始末して其処を開けてくれた。壕内は死に掛った戦傷者と戦死者で身動き出来なかった。今、此処を出て行くと、死に行く様なもので、折角治療したことが無駄になる。原隊へ行く事も出来ないだろうし第一、

原隊そのものが今何処にあるかも誰も分からない。死んだ戦友の跡にどうにかこうにか収容された。そして治療を受けた。そして治療も四日に一回と——だんだんと回数も少なくなり医療器具も少なくなり、看護人員も減少し、交代要員も乏しく、初めはおにぎりが三度配分されたが、そのおにぎりも一度になり、一度になり、そのおにぎりの大きさも段々小さくなり、飲み水も危なくなつて汲みに行けなくなり、壕内は食べ物や水を求める怒号が入り乱れて大変やった。日にちがはつきりしないが収容されてから一個月ほどたつてから五月の下旬、首里の軍司令部が陥落寸前となり、南風原陸軍病院の病院長(広地文吉中佐)から指令が出た。此の野戦病院は〇〇日(5月25日)に移動する。首里が陥落する先に移動する。移動(撤退)に当たって南部の喜屋武岬を目標にして途中、各部隊の壕や病院もあるから、女子学徒隊も一緒に移動するけれども、三々五々に移動するから、その人等に助けられて行ける人は移動(避難)してくれ。動けぬ人は此処で自決してくれ。これから青酸カリ(猛毒薬)を各自に支給する。青酸カ

リも絶対量が不足していたので、意識朦朧か、足腰の立たぬ負傷兵を一個所に集めて、衛生兵に指示して青酸カリを投与した。其処で約二千名の重症患者を軍は処置した。

5月下旬、米軍の包囲網は軍司令部のある首里に迫っていた。本土上陸を遅らせるための時間かせぎを至上の使命とした牛島軍司令官は「主戦力は消耗したがなお残存する兵力と——足腰の立つ島民とで、最後の一人までも戦い続ける」と言つて、群を南部に撤退させた。

5月25日、爆撃による破壊と降り続く雨で泥沼と化した道を、陸軍病院は撤退したが、南部への道は避難民や兵士があふれ無数の死体が転がり、手足のない重傷者らが、泥の中をはいずり回っていた。この時、陸軍病院や各部隊の野戦病院は約一万の患者を抱えていたが、司令部は「日本軍人らしく自ら処置せよ」と命令し、毒薬や手榴弾を与え、重傷患者を放置した。

自分で歩ける独歩患者は自分で此の豪を出てくれと言われて道下さんは乾パンを分けてもらったが足腰が立たず腕の利く人は三人寄り添つて自決してくれと言われた。女子学徒隊の人達と共に夜中に壕を出た。艦砲弾がどんどん近くに飛んで来て盛んに炸裂する。女子学徒隊は男子教師に引率されている。此の方々の足手まといになつては申し訳無いと思ひながら、砲弾を避けて逃げ歩いてゐる内に、何時の間にか方向も分らなくなり、其の人達と離れ離れとなつてしまった。もうこうなつ

たら僕は単独で死んでも構わんと、生きて生還する事は絶対には有り得ない事だった。何処が安全なのか分からず、彼方の壕へ避難し此方の墓の中へ避難し、そして食料を彼方で少し貰つたり、民間の人に貰つたり、戦死した人達の雑囊の中から乾パンが何か食べ物を漁つたり、自分の貰つた食料はとくに無くなり、最後まで残す心算で少しだけ残して、生き残る為に不足の分は他から、砂糖黍を取つて来たり芋畑はとくに荒らされて取り尽くされていたが僅かに取り残された細い指の様な芋を掘つてかじつたりして、東風平辺りまで落ち延びて来た頃、6月の中頃だったと思う、日本軍の他の部隊の壕へ行つても、元氣な兵隊なら戦闘要員として使えるが——今までは何此の味方の壕へ行つても壕の中へ入れてくれるし、食料もくれたが、この時は——君は此処におつても戦闘で苦勞するだけだとか、彼方の部隊の壕へ行つたら良いとか何とか旨い事言つて体良く断られ追い出された。彼方で断られ此方で断られたが一応は乾パンを恵んでくれた。然し彼の人等の言う事は至極尤もだと思つたので、少しも恨めしく思わなかつた。早かれ遅かれ何れ、お互いに戦死する身でもある事が分つていたからである。もう此処まで来たら昼間飛行機にやられても構わんと、民家の豚小屋に身を寄せた。一尺五寸ほどの高さの岩盤で囲われ約一間四方の広さの豚小屋は空爆でかなり破壊されていた。沖縄は何処の民家にも此の様な豚小屋が沢山あつた。今までの米軍の戦闘に一つのパター

ンがあり、時間を正確に言えないが朝の七時頃から大体九時まで一時間半ほど空爆や艦砲射撃のない、全く玉一発も飛んで来ない静かな時間帯があつた。岩盤の影に身を隠して、僕はこうなつたら空爆でやられようと何でやられようと、もうどうでもいいわいと自棄糞になつていた。十時頃か——其処へ、ひよつと見たら片一方の手に風呂敷に一杯物を包んで、もう一方の手に女の子を引いて、年齢が分らないが今にして思うと³⁵歳ほどの婦人が其処へ来て(道下さんは27歳)「兵隊さん此処に居ていいですか」——「ありや——あんた早く壕に入らんと駄目や」——何処へ行つても壕の中へ入れてくれない。軍隊は勿論、民間でさえも子供連れは断られた。理由は子供は泣き叫び声を出すから——お母さんは可哀想な人やつた。今までよくそうやって生き延びて来られたと思う。「いや——そんなら此の角の方にへばりついて身を隠しなさい。あんたは此処に入つて背中の子供を下ろして、子供を両脇に置いてしゃがみなさい」——その内に艦砲射撃が始まり、砲弾がずんずん近づいて激しくなつてきた。

空襲(空爆)も激しくなつてきた。幸い此の辺は集落で焼け野原になつて、畑には日本人の死骸で一杯やつた。その内、迫撃砲弾が段々と近づいてきたので——「奥さん、背中の子供を下ろしてもう少し低くしゃがまないと危ないぞ」「否、背中の子供を下ろすと泣いて駄目や」——艦砲より迫撃砲の方がはるかに危なかつた。砲身の角度を変えて少しずつ

砲弾が近づいてきた。「奥さん！もつとあたまをさげて、身体を低く低く——」

その内、「キヤツ！」と言う叫び声がしたので見ると背中の子供の首に迫撃砲弾の破片が当たっていたが、奥さんは伏せて居て、未だ其の事について気付いていない。「奥さん！背中の子供の首がひどくやられているぞ！奥さん早く子供を下ろすまっし！」直ぐ赤子を下ろしたら——もう首のところから血が吹き出てる。奥さんは死にも狂いで赤子を抱っこした。赤子は初めはぎやぎやと泣き叫んでいたが、その泣き声もだんだん弱まり、終りに亡くなった。母親はその児の名を呼んで、死ななうでえと——首の部分の肉が抉られていて、もうぐったりとしてしまった。「奥さん！もうその児は駄目や！」奥さんは狂乱して、儂の言う事が耳に入らない。——風呂敷包みの中から哺乳瓶の様な物を取り出して、可哀想に欲しがっていたあの時なんで飲ませんだか——充分飲み食いさせず、途中でやめては止めては、堪忍してくれ堪忍してくれと子供にしがみついて慟哭している。迫撃砲弾の弾幕ガス、どんどん近づいて来る。「奥さん！危ない！もつと早く伏せろ！じっとして！危ない！もうどうにもならんから岩壁にへばりついて、じっとして！迫撃砲弾の破片がますます近づいて来たぞ！」——すると奥さんが「私や！こんな恐い所に居られへん！私や此処を出て行く!!」「駄目や！今、此処から絶対に！迫撃砲弾が集中して来る最中や！或程度時間（約一時間）がたてば砲弾の流れ

が他へ移動して行く——今までの戦線で経験済みだから駄目や！」——と言うても、奥さんは子供が死んで半狂乱していて儂の言う事を制止して、傍の五、六才ほどの女の子を抱えて「さあ！行くぞ！」と立ち上がった途端に——今度は女の子の肩に破片が当たった。子供は「キヤツ！」と母親に飛び付いた。今度は二人で倒れて、その子の名を呼んで、わあわあ泣いている。子供は肩だったので暫くはしゃべっていた。痛い！痛い！と母親にしがみついて泣いている。その時の光景、戦争の状态は口では旨く表現出来ない。遇うた者にしか分らん。母親はもう悲しみを通り越して半狂乱になっている。子供の泣き声も弱くなつた。母親はもう悲しみを通り越して半狂乱になっている。

備考——道下さんの負傷箇所は右腕上腕に自動小銃による貫通銃創、前腕に盲貫銃創二箇所。尚、戦後内地に復員されてから、病院で摘出した物を見ると、迫撃砲弾の破片に形状がよく似ていた。米軍の物が日本軍の物は処分してしまった今日、確かめられない。今日の病院の手当の感覚では重傷扱いされると思うが、当時の戦場では軽傷扱いだった。

女子挺身隊——沖縄県の県立一高と師範学校女子部が戦場に動員された。勤務先は南風原陸軍病院で壕掘り作業。伝令。飯上げ。水汲み。食料調達。手術時の照明用ローソク持ち。切断する手足を押さえる仕事。注射。包帯洗い。薬品運搬。患者の食事の世話。排泄

物の処理。死体の埋葬。切断了手足の処理。患者担送。前者は六十五名中四十二名死亡。後者は八十一名中五十七名死亡。お国の為に尽くすことは当然として働き、或る意味では軍人以上に勇敢で献身的であった。後の世に「ひめゆり学徒隊」として称賛された。——敬礼、合掌——。

続きは会誌40号「ひめゆり部隊と共に」です。



美味しさは幸を運ぶ

寺井地区 前田昭則



料理作りは結構面白いものである。毎日三食作るのは大変ですが、週に1〜2回キッチンに立つのは不可能ではない。

ただ作る事だけではなく先ず何を作るかを考え、買い物に行く、材料選び、味付けでは、調味料は何をメインにするか、女房のように、昆布とかつお節のだし汁にするか、面倒だから出来合いの化学調味料を一切使わない塩分控えめの出来合いの調味料にするか等。

又調理をする器具は何を使うか、出来上がった料理の盛り付けは、どんな器に盛りつけるか、食べて、片付ける。料理の時間を確保するだけでも料理作りの一部である。料理作りと言うのは、結構楽しく、かつタイムマネージメント等、自分の人生を充実させるスキルを磨く良い機会でもあり、学びの多い時間でもある。

ぜひチャレンジして欲しいですね。料理を失敗しないコツは、作る前に材料をしっかりと量って準備しておく事、料理は意外とテン

ポが重要である。作ったら自分だけのレシピブックを作り、副菜やスープなど献立ごとに書いておくことが大切です。自分のレパートリーをコーディネートで記録してあると失敗もないし、料理に自信が持てます。

なんといっても料理は食材で決まるのではと私は思っています。特に旬の物、地元で取れたもの、特に美味しいですね。今回は、調理が下手でも、味は具材で決まると信じ、鍋料理に挑戦しました。野菜は畑で栽培した大根や水菜、ネギ、白菜等、魚は近江町まで出かけ、近海で取れた鰯を一匹買い求め、ぶつ切りにして、土鍋に放り込む、だし汁は、昆布や花カツオ等で多めに作る。器は九谷焼の市松模様の吸い物碗を用意する。出来上がった具材を九谷焼の器に入れ、好みの一味辛子と酒を少々垂らし、一口食べる、美味しい。家族の会話が盛り上がり最高の幸せである。調理は下手でも気持の籠った料理を皆さんも、月1〜2回美味しい料理作りにチャレンジしてはいかがですか。

”自分に幸せ”を運んでくれますよ。



独楽回し 趣味の話

矢田野地区 早松隆昌



小学校四、五年生の頃（昭和二十三、四年頃）冬寒い時、講堂（現在は体育館）で男は独楽回しで遊んだ。

始めは床の上で回すことから始め、上手になると、手の上にのせる様になった。右ききの人は、ヒモを右に。左ききの人が少しいたように思う。左に独楽をもちヒモを左巻きにして回した。

五年になると手の平に乗せて鬼ごっこをした。ルールは四、五人で、負けた人が鬼になり、鬼以外の人は一回手に乗せて逃げ、鬼の上に独楽が乗っているときのみになっていた。走っていたので、寒い時でも、暖かく、とても楽しかった。手に乗せられなかった人は、缶のフタを左手に持ち、フタに乗せて仲間になつて遊んだ。五年になると、綱渡りといって、右手に乗せてひもを左手小指にはさみ、右手から左手迄、ヒモに独楽を横にして渡す芸で、上手な人は五年、六年生になると出来

た。又上手な人は右手から左また右手と往復出来た。私もやった。独楽は右↓左の時、ひもをゆるめると右↓左へ、左↓右の時ひもを張ると上がって行くのです。これで、右↓左↓右と往復です。

次の肩掛けと云って、独楽を横に下におろし、引張って上げた時に、ヒモを肩に掛け、独楽がおりて来た時にヒモに掛ける難しい技でしたが、子供の頃は出来た。現在はやって見たが失敗ばかりで、今は出来ない。

子供が保育所へ行っていた頃、十二月頃になると冬の遊びとしてやっていた。夕方迎えに行った時、久し振りで見たので、なつかしくなり、所長に話し、私の独楽回しの発表会をやりました。子供達はとても喜んで見てくれた。又新聞社が来て新聞に出た市内保育所にも、所長が電話したのか、家の方に依頼があった。

孫が小学校四年の時も、昔の遊びで、今江小学校が始めでした。カラーコピーで、私の芸を撮ってくれました。思い出として保存しています。定年後であったので、元気であったので、各地へ回った。

次に東京の先生との出会いでした。加賀市のお寺での江戸独楽を初めて見ました。テレビで見ましたが、実物は初めてでした。曲芸でいうしても、糸を持つ芸がある。糸渡しといって、独楽を回し糸に引掛けて3〜4米位反対側に糸を持つての糸渡しです。

それを手伝いして、それから、金沢音楽堂で、曲芸師が来た時も、糸渡しの時は、会場

で「協力する人はいませんか」即ハイといって、舞台上上がりました。訳がわかっていたので喜んで出来ました。終了後、控室へ行つて色々教えて頂きました。少しでも芸を広げるチャレンジの気持ちで頑張っていた時でした。東京の先生が市内の老人ホーム他のボランティアであったと思うが、その時も連絡があり空港迄迎えに行き、会場へ行き手伝いをして芸を見てい乍ら自分も芸を広げていきました。

※（写真は著者本人）



要止め



平手回



末 広



刃渡り

下栗津町会館完成式に招待して、公演も依頼しました。刀を持っているのが危険物で羽田空港で、予定の便に來なかつた。小松空港で、私に空港内で連絡があり、大変でしたが次の便で乗ってこられました。刀は飛行機の荷物としてきました。帰りは又危険物です。で、その刀を私は頂き、お礼もしました。それで、刀の「真剣刃渡り」の芸が始まった。一ヶ月掛つたが、自分の物になった。刃の独楽を乗せる所の手入れ等、心棒の曲がつた時の（木工）ハンマで、修正等やる時と手入れ、分らない時は東京の先生に電話して、出来るようになった。

身体がもう悪くなっている、子供の独楽回しをOB会の中で好きな人はいませんか？ 昔の遊びの先生として、やって下さる人は居ませんか、二十五個（独楽）有ります、ヒモも二十五本付けますので宜しく願います。

以上が子供の頃より七十才頃迄の独楽回しです。

川柳

符津地区 北野正敏



- ・旅日記 一眼レフを もてあまし
- ・秋彼岸 女房の墓に 花を足し
- ・華やかな 過去と 戻りたり余生
- ・ほろ酔いの マイク演歌の 主役する
- ・ほどほどの楽天 今日を 生き延びる
- ・見舞い客 切れる頃には ひどくなり
- ・トランプに 付度をして 買うジェット

『水路記念碑』を

探し求めて

金沢地区 沢村勝義



きみなあゝコマツにゆかりのある石碑が鳥越にあるのを知つとるか？ きょうそこに行つとつたんだよ！と、あるお方から問われて、首を横に振つたのは、お旅祭りの数日前のことだった。

どうにも我慢ができなくて、翌朝鳥越に行つたけど、その石碑は見つからなかった。悔しくて何日も探したけど、やっぱりダメ。途方にくれて、黄門橋の上でボクッ和白山を眺めていたら、『その石碑なら、大日川沿いの渡津（わたづ）にある』と・・・不・思・義・な声が聴こえた！

冷んやりした風が頬をくすぐり、うぐいすの鳴き声や川の流れの音が、まるで♪エルガーの愛のあいさつ（ピアノ版）を奏でているかのように聴こえる・・・

そんな県道44号線を走ったら、左側に

”おおた農場”と書いた農家が見えたので、石碑のある場所を尋ねようと車を止めたら、道路を挟んだ向いに建っていたのには驚いて・感激して・歓声をあげた！



① ついに見つけた記念碑



② 涙ながらに読んだ碑文

どっかりと石碑の前に腰をおろして、台座に刻んである『碑文』を読み入っていたら、だんだん目頭が熱くなってきた。

若き日に、「鵜川遊泉寺の銅山跡」が、コマツ発祥の地だ！ と教えられて、何回か観に行つたけど・・・

銅山会社が使った電気を賄うために、鳥越に『神子清水（みこしみず）発電所』を造って送電していたとは！ そんなことは知りませんでした。 ようし・観てこよう！

発電所は無人だったので外観しか眺めるこ

とはできなかった。コンクリの建屋は建て替えられたものだろうけど、石川県では最古の発電所だそうで、現在は北陸電力が所有し、



③ いまも現役！ 神子清水発電所

常用出力430KWで運転している。
参考…あの黒四は88000KW



④ 滔々と水が流れる水路

碑文には、『水路』にかかわる美談も刻まれていたけど、農家の人に聞いた話によると、むかしは田んぼに引く水がなくて、お米ができなくて困っていたが、水路ができたお陰で、水を分けてもらえるようになって、稲作ができるようになったんだそうです。

記念碑は、そんな喜びと感謝を込めて建てたもので、この真新しい台座は、この村から北海道に移住して酪農をしている人が、里帰りのたびに傷んで崩れそうになっているのを見て、小松製作所に修復を頼んで30数年前に修理してもらったものなんだ。と、話してくれた。

帰りに、学生時代によく遊びに入った「綿ヶ滝」に立ち寄った。



⑤ 手取峡谷へ寄り道

絶景を懐かしく眺めていたら、きょう観た記念碑や発電所のことを、いろいろと想った。

あんなところに・・・あんなコマツのルーツを語る石碑とか・・・発電所が・・・やあ、知らなかったなあ・・・ 碑文に「この偉業を後世まで伝え」と刻まれていたけど・・・

もしかしたら、『現世の栗工OB会の方々や、現役の方々のなかにも、ご存知じゃない方がいらつしやるんじゃないかなあ？』

なら、小松からだとか360号線を鳥越に向けてひと走りすれば、40分ほどで行けるので、ご覧になられてはいかがでしょうか？そして口伝えの輪を広げられるとよいのでは？・・・と想う。

後日に読んだ新聞によると、「遊泉寺銅山跡を整備する」記事が載っていたけど、あの記念碑や碑文も整備する仲間に入っているんだろうなあ。

もしもそうでないなら、ぜひ一緒に整備して、いついつまでも大切に守ってほしいものだなあ！と、心から願うものの一人です・・・。

わが来し方の記

（自分史・壮年時代）

〓三十五年前の日記と雑文に見る回想〓

東陵地区 小枝敬一



◆はじめに

四十歳代に何を考え、書き残したものはなか、過去の日記や雑文を、漁っていたところ、昭和五十年代の前半、当時のわたくしは、「生産管理業務」に携わり、栗工から独立した「氷見工場」に赴任して八年、会社生活に對して、将来をどう歩むかを決めかねていた。昭和四十五年に労組役員の選挙で敗れ、労働組合運動の限界を感じつつも、企業活動のなかで、勤労者の立場を強めることが可能か、生産性向上とリンクした「労使対等」の実現を、「かなわぬ願い」と思いつつも、「管理職見習い」の立場と、地域自治活動やジャーナリズムへの強い関心との間で、その心は揺れていた。そしてそれは、「議員活動」への道ではなく、「民主社会主義」という思想に魅かれて、のめりこんで行ったモラトリアムな自分の姿だった。

本稿は、昭和五十六年に記した日記と雑文をもとにして書いてみた。

◆民主社会主義に魅かれて

民社研は昭和五十年に結党した民社党（民主社会党；委員長西尾末広）の理論的な後ろ楯となる政治学を中心となった研究組織で、当時の民間労働組合の役員が、かなり会員となっていた。初代の議長は、蠟山政道氏（お茶水大学長）で、関義彦氏（都立大教授）が後を継いでいた。毎年一月に全国研究会議が、東京で開かれ、その年の政治情勢を占う上で、大変貴重な学会であった。私は現役組合役員の頃から、個人会員の資格で時々参加をしていた。組合を退いてからは、まったくプライベート形で、仕事のやりくりをして、有給休暇で参加。参加費と滞在費は、かなりの出費で小遣いを貯め、苦勞して対応していたものだった。

◆久方ぶりに都バス乗車

昭和五十六年一月十一日、民社研全国会議の第一日目の会議が、午後六時にハネて、どうと参加者は、虎の門の久保講堂（昭和五十九年に取り壊されて、跡地に新霞が関ビルが建つ）から出された。前の三井ビルを横切つて、虎ノ門の表に出る。夕闇が迫り、交通量もさすがに激しく地方からの参加者は、それぞれ仲間同志が、タクシー拾って散ってゆく。小生は今回の参加で、タクシーは拾わず何とかしてバスと地下鉄で済ましたいと考えていた。虎ノ門から品川車庫行きの都バスを待つ。三〇四台のバスをみおくり、約十分

ほど待つて、ようやくバスに乗る。オールワンマンバスで、百十円であった。三田中の橋、麻布二の橋と進みバスを降りる。いつもの横断歩道を渡つて、南麻布の「麻布クラブ」へ入る。小路の左角がマンションになっている。この界限も四〇五年の間に、なんとなく変わつて来ているように感ずる。

◆麻布クラブと永代荘について

麻布クラブが出来たのは、昭和四十五〇四十六年頃だったと思う。初代の社友会会長Kさんが、教育厚生課長の頃で、ずいぶん昔になるが、組合本部の福祉厚生担当の頃に、先輩と一緒に来たことがある。確か米屋が前にあり、クラブは風呂屋の跡地に建てたものであった。賃上げ交渉・協約交渉の際に、地方支部の交渉員の常宿として、よく利用されたものであった。組合の宿泊拠点と言え、隅田川の永代橋界限の古い料亭に手を入れて、会社の寮とした「永代荘」があり、地方からの出張者が利用したものであった。しかし交渉時は、ほとんど組合が利用しており一般の利用は出来ず絶えず苦情が来たものだった。古いピアノがあり、昔気質の板前のおっちゃんや、オールドミスのみっちゃん、年増のおばちゃんなどが働いていた。組合の重要な会議もよくここで行われた。現在では、平成五年に「コマツ永代道場」として、女子柔道部の活動拠点となっている。

◆後輩諸君との邂逅

民社研全国会議の一日目の本会議には、栗津支部から書記長のK君が、十名あまりの支

部委員を引き連れて来ており、栗工労組支部の志が感じられ、うれしく思った。当方は「氷工勤務」の先輩だが、栗工時代の顔見知りの後輩もおり、懐かしかった。「民社研」についての感想をこもごもに語っていたが、批判的な見方のものも多かった。労働組合の教育は、概して一方的な講義調が多いが「民社研」は伝統的にデスカッション形式が多い。夜行の疲れからか、軒をかいて寝ているものも多く、もったいないと思った。内容的には、一流の講師陣で、高度で専門的な内容でもあり、支部委員クラスの教育としては難しいし、勿体ないと思っていた。しかし現在（昭和五十六年）の組合運動が「賃金・一時金・福利厚生・時短」などの狭い範囲に限定され、「社会改革の理論」を学習することや「組合の理念」の具体化などは、ほとんど議論されていない現状にあるとき、大切な投資だと日記ではつづられていた。

◆志を継ぐ若者

会社に入って社員（組合員）となり、定年まで平穩に終えるのもよし、出世街道まっしぐらの生き方もよし、広く世の中を見て、客観的に「労働の価値を高める」ことも大切なのではないか、若い連中の中から一人でも、組合運動の跡継ぎが生まれてくれることを望みたいと思った。麻布クラブでの夕食は、久しぶりに若い連中との意見交換で、気分がよかった。彼らが差し入れてくれたビールが美味かった。クラブも人手不足か、すべてがセルフサービスとなっていた。去年まではもつ

とアットホームな雰囲気だったのに・・・布団の上げ下ろしや、配膳の後始末でもある。これも当たり前とせずばなるまい。挽きたてのコーヒーが百円で飲める。夜は大西巨人の「神聖喜劇」を読み、ぐっすりと寝る。

◆民社研会議第二日目

昭和五十六年一月十一日今日は日曜日である。車の行き交いも少なく四谷見付行きバスに乗り、虎ノ門ホールまで徒歩、久保講堂に入る。ここは社会福祉のメッカでもある。いろいろな講座催しが目白押しだった。隣は「全日通会館」でレストランが一階にある。開会に先立ち「体系民主主義全6巻」を現金で支払い購入する。そして黒澤博通氏（民社書記局）の「選挙参謀」も求む。これで小遣いは底を払う。第二日目の講師の話はあまり聞かず昼飯は「うな井」を奮発、最近は食事から食事の間に一切間食はせず、無駄な金の代わりに、本を買うことにしている。休憩時間のラジオは、北陸地方の「大雪」を報じている。明日飛行機は飛ぶのだろうか、我が家の雪下ろしはどうなっているであろうか、氷見工場の除雪計画は？いろいろな心配事が頭をよぎる。会場には、高木邦雄、芦田甚介、芳賀靖、中条末夫、和田耕作、竹本孫一氏らの顔も見える。

◆一九八〇年と二〇一八年（昭和五十六年と平成三十年）

昭和五十六年一月の民社研全国会議最終日「一九八〇年日本の政治戦略」のパネルでは、自民党の海部茂樹、社会党の堀昌雄、公明党

の矢野洵也、民社党の永末英一、新自由クラブの河野洋平の各氏が勢ぞろい、司会の林卓男氏も「さすがは各党を背負ったつ錚々たる顔ぶれ」と自画自賛？会場の学生（民社学連）から現代の風潮を嘆き、もっと日本人がしっかりしなければならぬ、そのためには「憲法を云々」といわれた場合、どのような対応をするのか、鋭い質問が飛び交い、さすが「民社研」の存在は大きいと感じた。「憲法」と言うものを充分に研究していないと言うことは由々しき問題である。「歴代の保守政権のつけを清算」することは大きな課題と言えよう。明日はどうしようか北陸の雪はひどいらしい。

◆おわりに

継ぎはぎの拙文は、性格を表しているが、近頃は私の壮年時代（35歳から45歳位）の日本の「政治状況」と、八十一歳となった現在の私が見る日本の「政治状況」のあまりの「酷似」に、これは危ういと本能的に考えてしまふ。これは当方の杞憂に過ぎないのか、「少子高齢化の日本」、「官制賃上げ」に頼る労組、「核兵器禁止条約」から、一步距離を置く、日本政府、人間のしてきたことは、人間が始末をせずばなるまいが、当方は「人生の降り」をゆつくりと、楽しみながら過ごしてゆきたいと思っている。まずは「健康」で、「脳」を鍛え、物事に「感動」し、「控えめ」にして、多少の「おしゃれ感覚」と、己の「分」はわかまえつつ、「極楽往生」できればなあと思う、わがままな今日このごろである。

『コマツOBゴルフ同好会』の紹介

コマツOBの方でゴルフが好きな方々の集まりです。 月1回（10回/年）コンペを開催してゴルフを楽しんでいます。
皆さん同好会へご入会の上、ゴルフを楽しみましょう！！

平成29年の成績(上位のみの抜粋、飛賞・NPは省略)

敬称は省略

	第281回				第282回				第283回				第284回			
	平成29年3月14日				平成29年4月11日				平成29年5月9日				平成29年6月13日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	高橋 芳信	100	32	68	中村 幸雄	83	13	70	岩崎 新二	85	18	67	東出 一夫	81	14	67
準優勝	松田 行信	90	22	68	山下 敏夫	87	14	73	大間 豊光	104	36	68	大田 晋吾	87	20	67
3位	関戸 邦雄	80	11	69	山下 賢司	87	14	73	木本 信一	89	21	68	北野 元男	87	18	69
4位	北村 明雄	93	24	69	北野 元男	92	18	74	角谷 克己	101	33	68	山下 敏夫	80	11	69
5位	山下 敏夫	83	14	69	角谷 克己	107	33	74	金益 勝雄	91	22	69	西原 嘉隆	109	40	69
6位	出口 俊雄	90	21	69	桶谷 篤夫	99	25	74	松林 廣中	88	19	69	松林 廣中	89	19	70
7位	古戸 峻	96	26	70	橋本 明	104	28	76	高来 満	86	17	69	高来 満	87	17	70
B.B	二輪健太郎	114	22	92	桜井 昭維	117	24	93	山本 晴充	109	19	90	稲富 隆夫	115	26	89
B.G	関戸 邦雄	80			中村 幸雄	83			前田 信行	81			山下 敏夫	80		
特記事項	1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:桶谷篤夫さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:前田信行さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:木本信一さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:佐竹保之さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:寺津光展さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:中尾和明さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:浅本博司さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:松田順治さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:米久厚生さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:長谷川 治さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ5位:高来満さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:室統季雄さん			
(参考)	参加人数：69名				参加人数：61名				参加人数：70名				参加人数：69名			
	第285回				第286回				第287回				第288回			
	平成29年7月11日				平成29年8月8日				平成29年9月12日				平成29年10月10日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	西原 嘉隆	103	40	63	台風5号直撃により中止				出口 俊雄	93	21	72	角谷 克己	96	33	63
準優勝	松本 忠義	87	23	64					升田 良造	92	20	72	佐伯 洋	86	19	67
3位	船曳 祥男	90	24	66					山本 郁夫	86	13	73	高田 政明	109	40	69
4位	前田 信行	77	10	67					安達 利勝	101	27	74	淵田洋一郎	96	25	71
5位	松田 順治	101	33	68					桜井 昭維	98	24	74	前田 和雄	100	29	71
6位	山本 郁夫	82	13	69					山下 敏夫	85	11	74	山下 敏夫	83	11	72
7位	安達 利勝	97	27	70					室 統季雄	89	15	74	北川 洋明	86	14	72
B.B	斎藤 貢次	101	14	87					谷鋪 一矢	133	40	93	高橋 芳信	113	20	93
B.G	前田 信行	77							東出 一夫	81			佐伯 洋	86		
特記事項	1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:升田良造さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:東出一夫さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:今井時男さん				台風5号直撃により中止				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:北村明雄さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:佐伯 洋さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:高来 満さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:本村 孝さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:中村幸雄さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:杉山制二さん			
(参考)	参加人数：67名				参加人数： 名				参加人数：69名				参加人数：70名			
	第289回				第290回(納会:WP)											
	平成29年11月14日				平成29年11月30日											
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET								
優勝	山本 郁夫	85	13	72	二輪健太郎	93	22.8	70.2								
準優勝	古戸 峻	101	26	75	上田 幸久	95	22.8	72.2								
3位	高田 龍蔵	93	17	76	山下 敏夫	82	9.6	72.4								
4位	山下 敏夫	87	11	76	中村 外次	99	26.4	72.6								
5位	松田 順治	109	33	76	深田 武男	110	37.2	72.8								
6位	本村 孝	101	24	77	山本 晴充	97	24	73								
7位	二輪謙太郎	101	22	79	長谷川 治	91	18	73								
B.B	飛田 勇治	120	21	99	安達 利勝	107	24	83								
B.G	山本 郁夫	85			山本 郁夫	84										
特記事項	1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:山本晴充さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:角谷克己さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:佐藤正幸さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:前田和雄さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ10:今井時男さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲﾂ20:桜井昭維さん											
(参考)	参加人数：57名				参加人数：52名											

ゴルフ同好会へ入会ご希望の方は下記へご連絡下さい

代表幹事：山田 俊昭

TEL：0761-23-0846 090-9768-1186

携帯Eメール toshi-yamada1121@ezweb.ne.jp

小松製作所栗津工場OB会規約

第1章 名称および目的

- 第1条 本会は「小松製作所栗津工場OB会」と称する。
ただし、「コマツ栗津工場OB会」と称することも可とする。
- 第2条 本会は会員相互の親睦・交流を図ることを目的とする。

第2章 会 員

- 第3条 本会は下記の者をもって構成する。
1. コマツ栗津工場の定年退職者。
 2. 本社・他事業所・関係会社へ出向または移籍後の定年退職者。
 3. 本社・他事業所・関係会社の定年退職者で、当地へ転入して入会を希望し、常任理事会がこれを認めた者。
 4. 上記に準ずる者で常任理事会が入会を認めた者。

第3章 機関および役員

- 第4条 本会の機関は、総会、常任理事会、および理事会とする。
- 第5条 総会は本会の最高決議機関であって、毎年4月に定期総会を開く。
なお、理事会において必要と認めた場合は、臨時総会を開催することができる。
- 第6条 1. 常任理事会は会長、副会長・会計・常任理事をもって構成し、会長の諮問に応ずるとともに、理事会への提案事項を審議し、会務を執行する。
2. 1項の会務および第24条の本会事業の円滑な遂行を図るため事務局を置く。
事務局は常任理事をもって構成し、事務局長・局員若干名とする。
- 第7条 理事会は会長・副会長・会計・常任理事・会計監査および理事で構成し、常任理事会からの提案事項・その他重要事項を審議し、会務を執行する。
- 第8条 各機関の決議は、出席人員の過半数の同意を必要とする。
- 第9条 本会には下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----|-----|------|----------------|
| 会 長 | 1 名 | 常任理事 | 若干名 |
| 副会長 | 3 名 | 会計監査 | 2 名 |
| 会 計 | 1 名 | 理 事 | 別に定める地区分会ごとに選出 |
- 第10条 役員は会員中より選出し、総会の承認を得るものとする。
- 第11条 1. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. ただし、最長期間は5期10年（役職通算とするが、地区理事の就任期間は除く）とし、役職による期間は3項による。
3. 1. 常任理事 4期8年とする。 2. 事務局長 3. 会計 4. 副会長 5. 会長は各3期6年とする。
4. 改選時以外に就任した時は、3. の期間に加算するものとする。
- 第12条 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- 第13条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
- 第14条 常任理事は会長、副会長を補佐し、会務を執行する。
- 第15条 会計は本会の会計を担当処理する。
- 第16条 会計監査は本会の会計を監査する。
- 第17条 理事は地区分会を代表し、会務を執行する。

第4章 地区分会

- 第18条 本会には別に定める地域割りによる地区分会を設置する。
- 第19条 地区分会は各々の地域内において、本会の設立目的に沿い諸活動を行う。
- 第20条 地区分会には前条目的達成のため、必要に応じ委員を置くことができる。

第5章 会 計

- 第21条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。
- 第22条 本会の経費は次の収入をもって充当する。
会費・入会金・寄付金・コマツ栗津工場およびコマツユニオンからの賛助金。
- 第23条 1. 会費は年額2,500円とし、前年度末までに納入する。
2. 新規入会者は入会時に入会金2,000円を納入し、会費の納入は次年度よりとする。
ただし、65歳以上で入会する場合は、3,000円以上別に定める入会金とする。
3. 退会者（死亡者も含む）に対しては、既納の入会金・会費の払戻しはしない。
4. 会員が満90歳（4月1日現在で）を超えた人は、次年度より会費の年額を1,000円とする。又、長期重度療養見舞いを受けた人は、次年度以降の会費を免除する。
5. 白寿の祝いを受けられた方は、名誉会員として、次年度以降の会費の納入を免除する。

第6章 事 業

- 第24条 本会は次の事業を行う。
1. 親睦・交流のための諸行事。
 2. 会報および会誌の発行。
 3. 会員名簿の作成および改訂配布。
 4. 会員米寿および白寿の祝い。
 5. 会員および会員配偶者の死亡に対する弔慰。
ただし、配偶者の場合は会員生存中に限る。
 6. 長期重度療養者の見舞い。
 7. ボランティア活動。
 8. その他、本会の目的達成のために必要な事項。
9. 慶弔の基準は別に定める。

第7章 退 会

- 第25条 1. 会員本人が退会の届出をした場合、および年度会費納入の請求に対し1年以上未納の場合（住所・連絡先不明の場合を含め）は、退会とする。
2. 退会した場合は、会員名簿より氏名を削除し、以後は会員権利の行使を認めない。
3. 退会後の再入会は、やむを得ない事情があることを常任理事会が認めた場合に限りこれを認める。

第8章 付 則

- 第26条 本会の規約改定および解散は、総会の3分の2以上の同意を必要とする。
- 第27条 本規約に定めなき事項については必要の都度、役員協議の上決定する。
- 第28条 本規約は昭和53年（1978年）6月4日より施行する。

最終改定日 平成29年5月27日総会にて決定。

※ 下線が今回改定された部分です

編集後記：

今年は第40回総会記念の年であり、記念式典や高野山への物故者法要など、多くの記念行事がありました。また、これら記念行事の締めくくりとして、記念にかかわる投稿をお願いしたところ多くの投稿が寄せられました。編集委員一同有難く感謝いたしております。ありがとうございました。

これらのご投稿はそれぞれの行事の報告と併せ、ご覧いただけるよう行事ごとにまとめ掲示しましたので、各行事を思い浮かべながらご覧いただければ幸いです。

また本誌の目的であります会員の親睦を図るための、いろいろな知識や物語・紀行文・和歌や短歌など公序風俗・誹謗中傷・営利目的・事実誤認でなければ特に題材にはこだわりませんので、多くの皆様のご投稿をお待ちしております。

これからも、皆様のご健康とご多幸を祈願しております。また今後もOB会活動への参加とご協力を切にお願い申し上げます。

次号 会誌原稿募集

平成31年3月発行予定の会誌第40号の原稿を募集します。

●原稿募集要項

1. 字数は、四百字詰め原稿用紙10枚以内
(表題、写真含む)
2. 随筆、紀行文、思い出、俳句、川柳など
内容は問いません。
3. 表紙の写真・絵画も募集。
4. パソコン利用の方は、ワードデータで送信してください。
5. 原稿締め切り H30年11月末日
6. 原稿送付先 および お問合せ
小松市下栗津町ヤ33-14 中本 久治
TEL 0761(43)0971
メールの場合
nahisaji.meil@hb.tpl.jp

本号の感想をお寄せ下さい

会誌第39号で、最も面白かった投稿、印象に残った投稿その他感想を、中本までお寄せ下さい。

コマツ栗津工場OB会

会誌 第二十九号

発行日 平成三十年三月三十一日

発行者 OB会会長 竹田 敏洋

発行所 石川県小松市符津町ツ二十三

コマツ栗津工場OB会

編集者 会誌編集委員会(常任理事会)

委員長 中本 久治

事務局長 向井 良夫

電話 〇七六一―二二―七三五〇

印刷所 石川県小松市向本折町八一七

有限会社 斉藤印刷



神います「越しのしらね」

祈りの山「白山」が、開山1300年を迎えた年と、栗工OB会40回目の記念総会が開催された年が同じだったことに、偶然を超えたご縁があるように思えてならない。そんな節目の年に、小松市周辺では北陸新幹線の延伸工事が始まったことにも、不・思・議・な・ご縁を思う。

撮影日時：2017年11月28日
撮影場所：小松市矢崎町より望む
撮 影 者：沢村 勝義（金沢地区）